

2019年度
(平成31年度)

大 学 院 履 修 案 内

佐賀大学大学院農学研究科

2019年度(平成31年度)農学研究科授業日程の前半と後半について

春学期（前学期）

	前半（8回）	後半（8回）
月曜日	4／8～6／3	6／10～8／5
火曜日	4／9～6／11	6／18～8／6
水曜日	4／10～6／5	6／12～7／31
木曜日	4／11～6／6	6／13～8／1
金曜日	4／12～6／7	6／14～8／2

秋学期（後学期）

	前半（8回）	後半（8回）
月曜日	10／7～11／25	12／2～2／10
火曜日	10／1～11／26	12／3～2／14
水曜日	10／2～11／27	12／4～2／12
木曜日	10／3～11／28	12／5～2／13
金曜日	10／4～11／22	11／29～2／7

2019年度(平成31年度) 学年暦及び年間行事予定

春 学 期

- 4月1日(月) 春学期始
春季休業(4月7日まで)
- 3日(水) 2019年度入学式
- 4日(木) オリエンテーション
- 8日(月) 春学期開講
- 7月24日(水) 春学期定期試験時間割発表
- 31日(水) 春学期定期試験(8月6日まで)
- 8月7日(水) 夏季休業(9月30日まで)
- 9月25日(水) 2019年度学位記授与式<9月期>
- 30日(月) 春学期終

秋 学 期

- 10月1日(火) 開学記念日・秋学期始・秋学期開講
- 3日(木) 2019年度大学院入学式<10月期>
- 12月25日(水) 冬季休業(1月7日まで)
- 1月18日(土) 大学入試センター試験(1月19日まで)
- 31日(金) 秋学期定期試験時間割発表
- 2月7日(金) 秋学期定期試験(2月14日まで)
- 3月24日(火) 2019年度学位記授与式<3月期>
- 31日(火) 秋学期終

授 業 時 間

I	II	昼休み	III	IV	V	VI(夜間)(注)	VII(夜間)(注)
8:50~10:20	10:30~12:00	12:00~13:00	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50	18:00~19:30	19:40~21:10

(注) VI(夜間), VII(夜間) は, 大学院設置基準第14条による教育方法の特例に基づき行う授業

目次

I	農学研究科（修士課程）の概要	1
1	農学研究科の組織構成	1
2	コースの内容	3
3	教育研究分野の内容	4
4	附属アグリ創生教育研究センター	7
II	方針、教育・研究、研究指導、修了要件、履修方法	9
1	農学研究科の学位授与の方針	9
2	農学研究科の教育課程編成・実施の方針	9
3	各コースの教育・研究	10
4	研究指導の方法	13
5	修士論文および最終試験の評価基準	13
6	修了要件と学位	14
7	授業科目と履修方法	14
8	大学院設置基準第14条による教育方法の特例に基づく履修方法	14
9	履修手続について	15
10	相談等の連絡先	15
III	授業科目、単位数及び開講年次	16
IV	農業技術経営管理学コース（副コース）について	27
1	佐賀大学大学院農学研究科生物資源科学専攻農業技術 経営管理学コースに関する要項	27
2	授業科目、単位数、開講年次	29
3	副コース修了研究論文提出要領・概要記載要領	32
V	佐賀大学大学院農学研究科規則	34
VI	佐賀大学大学院農学研究科履修細則	38
VII	佐賀大学大学院農学研究科における 修士論文等の提出に関する要領	48
VIII	教育職員免許状（専修）の取得について	51
IX	鹿児島大学大学院連合農学研究科（博士課程）について	53
X	科目等履修生について	54
XI	講義室などの配置図	55

I 農学研究科（修士課程）の概要

1 農学研究科の組織構成

生物科学コース

教 育 研 究 分 野	担 当 教 員	学内内線番号
植 物 遺 伝 育 種 学	穴 井 豊 昭 教授	8725
	渡 邊 啓 史 講師	8741
作 物 生 態 生 理 学	有 馬 進 教授	8720
	鈴 木 章 弘 教授	8721
蔬 菜 花 卉 園 芸 学	一 色 司 郎 教授	8740
	辻 田 有 紀 准教授	8752
熱 帯 作 物 改 良 学	鄭 紹 輝 教授	8723
	藤 田 大 輔 准教授	8724
動 物 資 源 開 発 学	和 田 康 彦 教授	8787
	山 中 賢 一 准教授	8735
作 物 生 産 学	上 埜 喜 八 准教授	98－2245
ア グ リ 資 源 開 発 学	福 田 伸 二 准教授	98－2245
動 物 行 動 管 理 学	江 原 史 雄 准教授	98－2245
植 物 病 制 御 学	草 場 基 章 准教授	8727
植 物 ウ イ ル ス 病 制 御 学	大 島 一 里 教授	8730
線 虫 学	吉 賀 豊 司 准教授	8746
昆 虫 学	早 川 洋 一 教授	8747
シ ス テ ム 生 態 学	徳 田 誠 准教授	8792

食資源環境科学コース

教 育 研 究 分 野	担 当 教 員	学内内線番号
環 境 土 壌 科 学	長 裕 幸 教授	8757
生 産 地 盤 環 境 学	近 藤 文 義 教授	8761
	宮 本 英 揮 准教授	8759
浅 海 干 潟 環 境 学	郡 山 益 実 准教授	8760
水 利 環 境 保 全 学	阿 南 光 政 准教授	8737
灌 漑 科 学	弓 削 こ ず え 准教授	8756
地 域 環 境 学	原 口 智 和 准教授	8743
生 産 環 境 化 学	上 野 大 介 准教授	8793
農 業 生 産 機 械 学	稲 葉 繁 樹 准教授	8764
施 設 農 業 生 産 学	田 中 宗 浩 教授	8798

生命機能科学コース

教 育 研 究 分 野	担 当 教 員	学内内線番号
機 能 高 分 子 化 学	宗 伸 明 教授	8773
	上 田 敏 久 准教授	8789
応 用 微 生 物 学	小 林 元 太 教授	8779
	後 藤 正 利 教授	8780
藻 類 ・ ベ ン ト ス 学	木 村 圭 講師	8496
生 物 資 源 利 用 学	林 信 行 教授	8751
	野 間 誠 司 准教授	8749
	出 村 幹 英 特任准教授	37－6786
食 糧 安 全 学	濱 洋一郎 教授	8783
食 品 栄 養 化 学	永 尾 晃 治 教授	8781

国際・地域マネジメントコース

教 育 研 究 分 野	担 当 教 員	学内内線番号
食 農 ビ ジ ネ ス 開 発 学	辻 一 成 准教授	8731
地 域 資 源 学	五十嵐 勉 教授	8732
	中 井 信 介 准教授	8739
人 類 生 態 学	稲 岡 司 教授	8738
地 域 社 会 開 発 学	藤 村 美 穂 准教授	8728

2 コースの内容

生物資源科学専攻

専攻名	コース名	コースの内容
生物資源科学	生物科学	広範な生物資源の探索と機能解析，有用生物の育種開発，生態系における生物制御機構の解析，バイオテクノロジーによる新素材の開発等，バイオサイエンスに関する総合的かつ実践的な教育研究を行う。本コースにおける生物機能解析の対象は，遺伝子・細胞・代謝レベルから，生態系における個体レベルまで幅広く，生命・食糧・健康・環境等さまざまな分野の学術と産業発展を先導する先端的な内容である。
	食資源環境科学	地球レベルから地域レベルに至るまでの様々なスケールで生じている環境問題に対処するため，環境に負荷の少ない生物生産環境の創出・保全と豊かな生活環境の創造に関する教育研究を行う。 また，自然科学並びに情報科学の理論と技術を用いた環境に配慮した持続的な手法と高度な管理システムを創造し，地域の農業生産性を高める実践研究を行うと同時に，世界的な食料・環境及び資源循環の問題解決に寄与する教育研究を行う。
	生命機能科学	微生物から高等動植物にわたる多様な生物を対象として，その生命現象と遺伝機能を化学的に解明するための基礎的な教育と研究を行うとともに，生物の特異的な機能を有効に利用して有用物質を生産する方法の開発と，バイオテクノロジーの手法を用いた生物機能の改良を行う。 また，生物資源の持つ機能を食品生化学的・栄養生理学的に究明して，機能性食品及び医薬品への応用を目指すとともに，新しい食品加工・貯蔵技術及び食品素材の開発や食品の安全性に関する教育研究を行う。
	国際・地域マネジメント	日本を含むアジア・太平洋諸地域における①農林水産資源の循環的利用システムと農林水産業関連ビジネスの開発，②地域資源の持続可能な開発と利用システム，③諸民族・地域社会における人間と環境との諸関係，及び④半島・島嶼地域に関するフィールドワーク（実態調査）に基づき，持続可能な循環型地域社会及びその構築方策について実証的に教育研究を行う。

3 教育研究分野の内容

生物資源科学専攻

コース名	教育研究分野	分野の内容
生物科学	植物遺伝育種学	高等植物の遺伝理論及び突然変異遺伝子組換え技術等を利用した優良品種の開発について教育・研究を行う。
	作物生態生理学	ダイズ、イネ、ムギ等の作物の形態形成及び生理機能の解明をおこなう。また、有用土壌微生物である根粒菌や菌根菌と高等植物との共生関係成立機構に関する基礎的な研究を推進するとともに、それを作物生産へ応用することを目指した教育・研究を行う。
	蔬菜花卉園芸学	高等植物の生殖生理を基礎とした種苗の生産技術の開発について教育・研究を行う。また、植物の系統進化、植物と菌類との菌根共生系の解明と野生植物の保全について教育・研究を行う。
	熱帯作物改良学	熱帯及び亜熱帯作物の生産力向上のための栽培条件及び品種能力の改良について教育・研究を行う。
	動物資源開発学	家畜家禽を中心とした脊椎動物の遺伝育種学やゲノム解析学、分子生物学や繁殖生理学についての教育・研究を行う。
	作物生産学	資源循環型の食料生産に関する技術を解明し、アグロフィードの管理と周辺環境の保全に関する教育研究を行う。
	アグリ資源開発学	農業遺伝資源を活用した新品種の開発や栽培方法の確立について教育・研究を行う。
	動物行動管理学	農業によるヒトの健康や福祉の向上に寄与するため、農業資源であるウシやヤギなどの家畜を障害を持つ人のケアの手段として活用する方法に関する教育・研究を行う。また、限られた環境で生活している家畜のストレスケアに関する研究を行う。
	植物病制御学	植物と病原菌の遺伝的相互作用・発病機構の解明と発病制御並びに植物病原糸状菌の生態・進化の解明について教育・研究を行う。
	植物ウイルス病制御学	植物病原ウイルスの分子進化・分子生態と宿主植物との相互作用の解明について教育・研究を行う。
	線虫学	昆虫病原性線虫及び菌食性線虫の生理生態並びに利用と、植物寄生性線虫の制御について教育・研究を行う。
	昆虫学	昆虫の様々な生理特性（寄生・休眠・免疫・ストレス応答など）の分子生物学的解析とその応用技術について教育・研究を行う。
	システム生態学	昆虫と植物を主対象として、生物多様性の創出・維持機構、生物における生態学的諸特性の解明、および、生物群集のシステム解析について教育・研究を行う。

コース名	教育研究分野	分野の内容
食資源環境科学	生産地盤環境学	この分野では、農村地域における生産地盤および環境保全に関わる教育と研究を行う。主なテーマは、(1)火力発電所の産業廃棄物である石炭灰の有効利用、(2)地盤沈下や斜面崩壊などの佐賀平野の粘土地盤対策、(3)有田キャンパスと連携した陶磁器粘土の開発とその機能性評価、(4)地盤内部の非破壊モニタリング技術の開発、(5)ICTを駆使したデータ駆動型農業の推進などである。
	浅海干潟環境学	浅海干潟域における生態環境の保全と物質循環について教育・研究を行う。
	水利環境保全学	農業農村地域における水資源と水環境の問題を利水の面からとらえ、水を有効に利用するための計画、管理及び制御と水環境の保全について教育・研究する。
	灌漑科学	農地レベルから広域スケールにおける農業用水管理手法の高度化と持続可能な農村環境の保全および創出について教育と研究を行う。
	地域環境学	農業農村地域の環境保全技術ならびに地域資源の農業への活用技術について教育・研究を行う。
	生産環境化学	環境中に存在する“匂い（におい）”という化学物質を分析化学的・官能的に解析し、生産環境における問題の解決を目指した教育・研究を行う。
	農業生産機械学	機械工学・先端技術・ICT（情報通信技術）の利用を通じて、農業生産・農産物加工に必要な機械の高性能化とエネルギー利用効率の向上、農業における労働負担の軽減を目標とした教育と研究を行う。
	施設農業生産学	農業生産性向上のための施設化及び装置化技術の開発・利用について教育・研究を行う。
生命機能科学	機能高分子化学	生理活性ペプチドの活性発現機構の解明及び新規バイオ分析法の開発について教育・研究を行う。
	応用微生物学	微生物機能の解明有効利用及び有用物質生産について教育・研究を行う。
	藻類・ベントス学	海藻・植物プランクトン・二枚貝を対象に、海の環境変化等に対する応答を分子レベルで解析し、新品種の作出等に応用することを目的とした教育と研究を行う。
	生物資源利用学	生物資源の有効利用及び生物生産物の生化学について教育・研究を行う。
	食糧安全学	食品素材の構造研究を基にして、それらの機能性、有効利用ならびに品質評価、安全性に関する教育・研究を行う。

コース名	教育研究分野	分野の内容
生命機能科学	食品栄養化学	①食品の栄養価値及び食品の栄養生理機能の解明 ②脂質・リボタンパク質の代謝調節
国際・地域 マネジメント	食農ビジネス開発学	食料流通経済学と農業経営学に関わる研究と教育を行う。 食料流通市場構造を分析し市場対応を検討するほか、生産財、農地、農業労働力、農業金融関連市場について実証的研究を行う。また家族農業経営、集落営農、農業法人を対象に組織、管理について実証的研究を行う。調査対象地は日本国内を中心に東・東南・南アジアである。
	地域資源学	地域資源の適正保全と循環的利用を生態人類学的・人文地理学的に調査研究する。地域資源（生物資源・人的資源・文化的資源）の多様性と伝統的利用形態や生計維持戦略の解明、農地・水・森林資源開発の諸問題や土地利用システムを究明し、多様な動植物相利用、伝統的技術・知恵の伝承性、風土性の現代的意味を再考察し地域資源持続的利用を検討する。
	人類生態学	日本の地域社会の環境保全や自然保護、途上国の環境・健康問題を生物人類学・社会学・民俗学的に調査研究する。地域社会の価値や技術、環境管理システムや環境政策のあり方、ヒトの生物学的特性等を検討することで、環境変化に対するヒト及び地域社会の対応と変化を明らかにし、地域社会の持続可能な開発を提案する。
	地域社会開発学	日本や途上国の地域社会の環境問題や生活問題を社会学・民俗学的に調査研究する。地域社会の価値や技術、環境管理システムや環境政策のあり方などを検討することで、環境変化に対する住民及び地域社会の対応と変化を明らかにし、地域社会の持続可能な開発のあり方を提案する。

4 附属アグリ創生教育研究センター

<http://www.aic.ag.saga-u.ac.jp>

農学は、与えられた自然や地域の条件を十分に生かしながら、人間にとって有益な動植物を合理的に生産し、流通するための総合科学である。穀物、蔬菜・花卉、果樹、家畜などの生産・流通、環境保全において、各方面から実践的な教育・研究を行う施設として、本学部に附属アグリ創生教育研究センターが設けられている。センターは、佐賀市川久保の本部と、唐津市の唐津キャンパスの2ヶ所に分かれている。

センター本部（約10ha）は、わが国の三大沖積平野のひとつである佐賀平野の北部に立地しており、本学から北東へ約12kmにあり、実習用バスで約30分を要する。ここには水田（172a）、茶園（14a）、落葉果樹園（23a）、野菜園（196a）、温室（65a）、飼料園（232a）、放牧場（79a）、場外水田（67a）、ならびに各種の建物（研究棟、宿泊施設、畜舎、農機具舎など）がある。さらに、本部より北へ約4km離れて、脊振山系の金立山南面の佐賀平野を一望できる地点に果樹園（8ha）がある。ここには世界各地から集めた柑橘類が教育・研究および遺伝資源として栽培管理されている。上記の圃場や施設を活用して、農業生産活動の実践の中から、安心・安全な食糧の生産と流通、環境保全、国際・地域貢献および農業フィールド資源の多面的活用などの領域における諸課題に関する研究と教育を行っている。

唐津キャンパスは、佐賀県北西部の玄界灘に面した地点に位置し、本学から北西へ約50kmあり、JR筑肥線東唐津駅及び唐津市内産業道路に近接しており、佐賀市からも福岡市からもアクセス条件に恵まれている。総面積は約48aであり、その中に研究棟、ガラス温室および研究圃場がある。

唐津キャンパスでは、地域で生産される植物資源を利用した健康機能開発やコスメティックサイエンスに特化した研究を行い、地域に集積しつつあるコスメティック産業の研究の拠点として地域貢献を目指す。

センターに在籍する大学院修士課程の学生は、下記研究・教育分野の教員の指導の下、修士論文の作成を行う。

動物行動管理学分野（江原史雄）

農業によるヒトの健康や福祉の向上に寄与するため、農業資源であるウシやヤギなどの家畜を障害を持つ人のケアの手段として活用する方法に関する教育研究を行う。また、限られた環境で生活している家畜のストレスケアに関する研究を行う。

作物生産学（上埜喜八）

資源循環型の食料生産に関する技術を解明し、アグロフィールドの管理と周辺環境の保全に関する教育を行う。

アグリ資源開発学分野（福田伸二）

佐賀大オリジナル果樹品種の育成を目指して、育種技術の開発（DNAマーカー）や栽培技術の開発に取り組む。また、アグリ創生教育・研究センターフィールドを活用した実践的な教育・研究も併せて行う。

II 方針，教育・研究，研究指導，修了要件，履修方法

1 農学研究科の学位授与の方針

佐賀大学大学院農学研究科の教育目的に沿った知識・技能を修得し，学生が身に付けるべき以下の具体的学習成果の達成を学位授与の方針とする。

所定の単位を修得するとともに，修士論文を提出した者に対して修了判定を行い，農学研究科教育委員会及び研究科委員会の議を経て，学長が修了を認定し，学位を授与する。

- ① 所属する専攻やコースなどの専門分野における学問領域において，先端の高度な専門知識を身に付けている。
- ② 研究活動を通して実践的な知識を身に付けるとともに，科学的思考力と洞察力を養い，専門分野及び関連する分野における諸問題の解決に自律的に取り組む能力を身に付けている。
- ③ 専門分野の枠を超えて，幅広い教養と広範な視野をもち，地域や社会に貢献するための意欲と実践力を身に付けている。

2 農学研究科の教育課程編成・実施の方針

教育目的

佐賀大学が立地する佐賀県は，農業，有明海水産業，醸造業，製菓業，窯業などが地場産業として長い歴史を持つ。佐賀大学には，このような地域産業を振興し，新たな地域創生を担う人材を育成する使命がある。また，社会情勢の変化により，農業分野においても，他分野との境界域を超えて，医食同源，機能性食品開発，スマート農業などに代表されるように分野間の融合が進んでいる。農業分野の高度化には，理学，工学ならびに医学の知識と手法も不可欠となっている。

佐賀大学大学院農学研究科では，主たる専門分野における知識を身につけるとともに，大学院教養教育プログラム及び自然科学系研究科共通科目の履修により，多様化及び高度化する理工学系，医学系の異分野との融合を図り，複眼的視点から科学的な思考ができる専門職業人材を養成することを教育目的とする。

教育課程の編成・実施の方針

本研究科において，以上のような教育目的を達成し，学位授与の方針を具現化するため，以下の方針の下に教育課程を編成し，教育を実施する。

- ① 学位授与の方針①を達成するために，「専門科目」を配置する。
- ② 学位授与の方針②を達成するために，「特別研究」を配置する。
- ③ 学位授与の方針③を達成するために，「大学院教養教育プログラム」及び「自然科学系研究科共

通科目」を配置する。

④ 学位授与の方針①②③を達成するために、修士論文の審査及び最終試験を実施する。

1) 教育の実施体制

① 全ての授業科目で開講前にオンラインシラバスを作成する。

② 閉講後には学生による授業評価アンケートに基づく教育改善を実施する。

2) 教育・指導の方法

① 各授業科目は、シラバスに明示された講義概要、授業計画に従って実施する。

② 各学生に指導教員ならびに副指導教員を配置し、履修指導や研究支援、修士論文執筆指導を行う。

3) 成績の評価

① 成績評価は、シラバスに明示された基準に従って厳格に行う。

② 修士論文審査及び最終試験は、主査1名、副査2名以上によって実施する。

3 各コースの教育・研究

生物科学コース

本コースの教育課程は、広範な生物資源の探索と機能解析、有用生物の育種開発、生態系における生物制御機構の解析、バイオテクノロジーによる新素材の開発等、バイオサイエンスに関する総合的かつ実践的な教育研究を行う。本コースでは、遺伝子・細胞・代謝レベルから、生態系における個体レベルまで広範な領域における教育研究を実践する。生物科学を基盤とした様々な分野に関する包括的な教育研究を行うことにより、グローバル化時代に対応できる幅広い視野を持って、世界の食糧・健康・環境・生物多様性などの諸問題の解決、生物関連産業の振興および生物科学の発展に貢献できる技術者・研究者を育成する。そのために、(1) 生物科学の領域における先端の高度な専門知識、(2) 生物資源の生産と制御に関する諸問題の解決に自律的に取り組む能力、(3) 専門分野の枠を超えて、幅広い教養と広範な視野をもち、地域や社会に貢献するための意欲と実践力、を身に付けることを目標とする。

教育目標1に関して、「選択科目」として「熱帯農業資源学特論」、「熱帯資源植物利用学特論」、「熱帯作物改良学特論」、「熱帯作物生理学特論」、「動物ゲノム情報学特論」、「動物発生学特論」、「動物繁殖生理学特論」、「蔬菜花卉園芸学特論」、「園芸植物資源開発学特論」、「花卉園芸学特論」、「植物ゲノム育種学特論」、「植物分子遺伝学特論」、「植物ゲノム工学特論」、「植物ゲノム情報科学特論」、「植物ウイルス病学特論」、「植物ウイルス学特論」、「線虫学特論」、「先端線虫科学特論」、「動物行動生態学特論」、「動物行動学特論」、「家畜行動学特論」、「家畜管理学特論」、「作物生産学特論」、「作物生態学特論」、「生産生態学特論」、「循環型農業生産学特論」、「果樹園芸学特論」、「果樹生産学特論」、「動物遺伝育種学特論」、「施設農業生産学特論」、「農地環境工学特論」、「農地農水計画学特論」、「農用先端機械学特論」を開講している。また、生物科学分野における最先端かつ多様な研究活動の場を通じて研鑽を積むことを目標に「特別研究Ⅰ～Ⅳ」を開講している。

教育目標 2 に関して、学生同士が切磋琢磨する環境の中で、自ら研究課題を設定し研究活動を実施する等の想像力、自立力等を磨く教育として、「特別研究Ⅰ～Ⅳ」及び「生物科学演習Ⅰ・Ⅱ」を開講している。

教育目標 3 に関して、1 年次に「自然科学系研究科共通科目」として「生物科学特論」を開講している。

食資源環境科学コース

本コースの教育課程は、農林水産業の生産基盤整備と環境保全、食資源に関する知識を習得し、農水産業や環境に関連する技術者・研究者となる高度人材を養成することを目的とする。本コースにおいては、農学分野の中でも、特に、農業工学の領域において、水資源及び地盤環境等の生産基盤領域のみならず、バイオマス利活用、環境修復、IT活用に対応した専門性と先端知識を養うために、(1) 食資源環境科学の領域における先端の高度な専門知識、(2) 農業生産や環境に関する諸問題の解決に自律的に取り組む能力、(3) 専門分野の枠を超えて、幅広い教養と広範な視野をもち、地域や社会に貢献するための意欲と実践力の習得、を教育目標とする。

教育目標 1 に関して、「選択科目」として、「環境地盤学特論」、「環境分析化学特論」、「環境情報工学特論」、「生産情報処理学特論」、「先端情報技術学特論」、「生産エンジニアリング特論」、「先端環境分析化学特論」、「水資源計画学特論」、「分光統計解析学特論」、「土壌物理学特論」、「水環境工学特論」、「生産地盤工学特論」、「浅海環境工学特論」、「先端地水学特論」、「利水解析学特論」、「応用水利学特論」、「土質工学特論」、干潟生態環境学特論」、「植物環境応答学特論」、「応用植物生理学特論」、「植物系統分類学特論」、「植物病原学特論」、「植物感染病学特論」、「昆虫分子生物学特論」、「先端昆虫分子生物学特論」、「システム生態学特論」、「進化生態学特論」、「動物資源開発学特論」、「農業気象学特論」を開講している。また、食資源環境科学分野における最先端、かつ多様な研究活動の場を通じて研鑽を積むことを目標に「特別研究Ⅰ～Ⅳ」が開講されている。

教育目標 2 に関して、学生同士が切磋琢磨する環境の中で、自ら研究課題を設定し研究活動を実施する等の想像力、自立力等を磨く教育として、「特別研究Ⅰ～Ⅳ」及び「食資源環境科学特別演習Ⅰ～Ⅳ」を開講している。

教育目標 3 に関して、1 年次に「自然科学系研究科共通科目」として「食資源環境科学特論」を開講している。

生命機能科学コース

本コースの教育課程は、生命化学や食料科学を基礎として食品や医薬品の関連産業で技術者・研究者となる高度人材を養成することを目的とする。本コースにおいては、農学の特に農芸化学の領域において、食品の安全や栄養化学、食品加工技術や微生物の応用等、食品の栄養健康機能のみならず、生物資源の化学的利用に関する専門性と先端知識を養うために、(1) 生命機能科学の領域における先端の高度な専門知識、(2) 食料や健康に関する諸問題の解決に自律的に取り組む能力、(3) 専門分野の枠を超え

て、幅広い教養と広範な視野をもち、地域や社会に貢献するための意欲と実践力の習得、を教育目標とする。

教育目標 1 に関して、「選択科目」として、「生化学特論」、「タンパク質科学特論」、「微生物遺伝学特論」、「真核微生物学特論」、「応用微生物学特論」、「微生物学特論」、「生物有機化学特論」、「分子生物学特論」、「バイオセンシング特論」、「バイオ材料特論」、「分子細胞生物学特論」、「細胞情報学特論」、「食品生化学特論」、「食糧流通貯蔵学特論」、「食品科学工学特論」、「バイオマス利用特論」、「海洋資源化学特論」、「グリコバイオロジー特論」、「バイオメンブレン機能特論」、「食糧安全学特論」、「分子栄養学特論」、「脂質生化学特論」を開講している。また、生命機能科学分野における最先端、かつ多様な研究活動の場を通じて研鑽を積むことを目標に「特別研究Ⅰ～Ⅳ」が開講されている。

教育目標 2 に関して、学生同士が切磋琢磨する環境の中で、自ら研究課題を設定し研究活動を実施する等の想像力、自立力等を磨く教育として、「特別研究Ⅰ～Ⅳ」及び「生命機能科学特別演習Ⅰ・Ⅱ」を開講している。

教育目標 3 に関して、1 年次に「自然科学系研究科共通科目」として「生命機能科学特論」を開講している。

国際・地域マネジメントコース

本コースの教育課程は、国際的な農業・農村振興の視点から国内外の地域社会と連携した実践教育により、農業や地域産業の育成に関わる高度人材を養成することを目的とする。本コースにおいては、地域社会の基盤となるマネジメントに関する専門性と先端知識を養うために、(1) 国際・地域マネジメントの領域における先端の高度な専門知識、(2) 農学を基盤とした地域振興と国際協力に関する諸問題の解決に自律的に取り組む能力、(3) 専門分野の枠を超えて、幅広い教養と広範な視野をもち、地域や社会に貢献するための意欲と実践力の習得、を教育目標とする。

教育目標 1 に関して、「選択科目」として、「農業経済学特論」、「農業ビジネスマネジメント特論」、「アジア比較農業特論」、「食料市場流通特論」、「国際・地域協同組合特論」、「地域農業オーガニゼーション特論」、「比較農政学特論」、「農村社会学特論」、「人間生態学特論」、「国際環境マネジメント特論」、「地域資源マネジメント特論」、「農村地理学特論」、「ルーラル・デベロップメント特論」、「生態人類学特論」、「アジア地誌特論」を開講している。また、国際・地域マネジメント分野における最先端、かつ多様な研究活動の場を通じて研鑽を積むことを目標に「特別研究Ⅰ～Ⅳ」が開講されている。

教育目標 2 に関して、学生同士が切磋琢磨する環境の中で、自ら研究課題を設定し研究活動を実施する等の想像力、自立力等を磨く教育として、「特別研究Ⅰ～Ⅳ」及び「国際・地域マネジメント演習Ⅰ～Ⅳ」を開講している。

教育目標 3 に関して、1 年次に「自然科学系研究科共通科目」として「国際・地域マネジメント特論」を開講している。

農業技術経営管理学コース

本コースは、高度な農業技術と経営管理能力を有する人材の育成を目的とする実践的な教育カリキュラム（農業版MOT教育）からなり、農業法人や法人化を志向する集落営農組織等における中核的経営者、農政や農業団体における営農指導者、農業関連分野に新に参入する企業等における指導的立場で働く企業人、及びアジアの諸地域におけるアグリビジネス産業の発展に寄与できる人材等の育成を目指す。

この教育プログラムでは、講義科目8科目以上、農業技術経営管理学概論1単位、農業技術経営管理学演習3単位及び修了研究3単位の合計15単位以上の修得によって、修士（農学）に加えて「佐賀大学農業技術経営管理学コース」の修了証及び農業技術経営管理士の称号が授与される。

4 研究指導の方法

学生は、指導教員と良くコミュニケーションをとりながら、自主的な研究の遂行と関連分野の勉学に励む。修士課程で得られる研究成果については、関連する学会等での発表を目指すとともに、成果を取り纏めた修士論文を作成する。研究室においては、科学者倫理に留意しながら日々実験・調査・討議等を行い、安全な研究環境の維持に配慮する。

1) 研究テーマの設定と実施

修士課程における研究（特別研究）は、1、2年生を通じて行う。特別研究のテーマは、指導教員との綿密な検討、打ち合わせにより設定する。特別研究の遂行において必要な事項については、指導教員より指示される。研究室で行われる検討会や雑誌会などに積極的に参加するとともに、研究に関連する学内の諸施設・設備の案内・技術講習等にも適宜参加する。

2) 研究成果の公表

研究成果については、関連する学会や研究会での発表、また学会誌への投稿を目指す。発表に関し必要なプレゼンテーションの手法、また論文作成の方法については、指導教員より教授される。

3) 修士論文の作成と修士論文発表会

特別研究の成果を取り纏めた修士論文を作成する。その内容について、2年生終了時に修士論文発表会において発表する。修士論文発表会は、各コース単位で実施され、口頭発表で行う。なお、修士論文の審査教員から口頭試問による最終試験が行われる。

5 修士論文および最終試験の評価基準

1) 修士論文

修士論文の評価は、主査（1名）及び副査（2名以上）教員が行う。各教員が100点満点（修士論文の内容50点、発表会の内容50点）で採点し、その平均点（小数点以下は切捨て）において、60点以上が合格である。

2) 最終試験

最終試験の評価は、主査及び副査教員が行う。各教員が100点満点で採点し、その平均点（小数点以下は切捨て）において、60点以上が合格である。

6 修了要件と学位

修了要件は、本研究科に2年以上在学して60単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することである。

学位の種類は、修士（農学）である。

7 授業科目と履修方法

(1) 授業科目

各コースの授業科目は、「Ⅲ授業科目、単位数及び開講年次」のとおりである。

(2) 履修方法

- ① 大学院教養教育プログラム4単位以上、自然科学系研究科共通科目8単位以上及び専門科目のうち各コースに指定される必修科目（特別研究36単位を含む。）を含む48単位以上、計60単位以上を修得しなければならない。
- ② 大学院教養教育プログラム及び自然科学系研究科共通科目のうち①にある要件を超えて修得した単位、指導教員が必要と認めて履修した他コース、他研究科又は他大学院の授業科目の単位は、4単位を限度として各コースの専門選択科目の修了に要する単位に含めることができる。

所属コースの特別研究	36単位
大学院教養教育プログラム	4単位
自然科学系研究科共通科目	8単位
所属コースの専門科目	12単位
合 計	60単位以上

8 大学院設置基準第14条による教育方法の特例に基づく履修方法

- (1) 特例の適用の対象となるものは、社会人学生である。

学生は、「授業科目、単位数及び開講年次」の内容に基づき、各自の在学期間を見通した履修計画を立てること。

- (2) 履修計画は、指導教員の指導のもとで作成するものとする。
- (3) 特例を適用する場合、課程修了に必要な60単位のうち42単位（特別研究36単位を含む。）以上は、通常の授業時間帯における履修によって修得しなければならないものとする。
- (4) 社会人学生は特例に基づいて開設される授業の履修によって修得した単位のうち18単位までを課程修了に必要な単位数に含めることができる。

なお、社会人学生以外の学生で指導教員がその必要性を認めた者については、10単位を限度として、上記特例に基づいて開設される授業を履修して、課程修了に必要な単位数に算入できるものとする。

- (5) 特例による夜間の授業時間は、次のとおりである。

第1時限 18:00～19:30

第2時限 19:40～21:10

9 履修手続について

授業科目を履修し、単位を修得するためには、次の手続を経なければならない。

- ・ Web による履修登録になるので、登録・修正期間、場所等は詳しくは掲示を見ること。
- ・ 講義に出席し、定期試験を受験し、あるいは、レポート等を提出して合格点に達すれば、所定の単位が与えられる。

10 相談等の連絡先

履修関係等

農学部教育委員：sodan-k@ml.cc.saga-u.ac.jp

学生生活関係等

農学部学生委員：sodan-g@ml.cc.saga-u.ac.jp

Ⅲ 授業科目，単位数及び開講年次

1 授業科目，単位数，開講年次

生物資源科学専攻

科目 区分	授業科目の名称	単位数		担当教員	2019年度				2020年度				備 考
		必修	選択		春学期		秋学期		春学期		秋学期		
					前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	
大学院 プログラム	研究・職業倫理特論	1			○				○				※必修科目を含め4単位以上選択必修
	情報セキュリティ特論	1			○				○				
	データサイエンス特論	1					○				○		
	学 術 英 語 特 論		1		○				○				
	ダイバーシティ・人権教育特論		1				○				○		
	キャリアデザイン特論		1		○				○				
	多文化共生理解		1		○				○				
自然科学系 研究科 共通科目	創成科学融合特論	2			○	○			○	○			集中 ネット
	創成科学PBL特論	2											
	知的財産特論	2											
	理 工 学 概 論		1		○				○				
	医学・看護学概論		1			○				○			
	創成科学インターンシップS		1										※必修科目を含め8単位以上選択必修
	創成科学インターンシップL		2										
	理工学特別講義		2		○	○	○	○	○	○	○	○	
	数 学 概 論		1				○				○		
	物 理 学 概 論		1				○				○		
	知能情報工学概論		1				○				○		※生物科学特論は生物科学コース、食資源環境科学特論は食資源環境科学コース、生命機能科学特論は生命機能科学コース、国際・地域マネジメント特論は国際・地域マネジメントコースの必修
	材料化学特論		1				○				○		
	機械工学概論		1				○				○		
	電気電子工学概論		1				○				○		
	都市工学通論		1					○				○	
	人体構造機能学概論		1			○				○			
	人 体 構 造 実 習		1		○	○	○	○	○	○	○	○	
	看 護 理 論		1										
	生 物 科 学 特 論		1				○				○		
	食資源環境科学特論		1				○				○		
	生物科学コース 専門科目	生命機能科学特論		1				○					○
		国際・地域マネジメント特論		1				○				○	
熱帯農業資源学特論			1	鄭 紹輝	○				○				
熱帯資源植物利用学特論			1	鄭 紹輝		○				○			
熱帯作物改良学特論			1	藤田 大輔			○				○		
熱帯作物生理学特論			1	藤田 大輔				○				○	
動物ゲノム情報学特論			1	和田 康彦				○				○	
動物発生学特論			1	山中 賢一			○				○		
動物繁殖生理学特論			1	山中 賢一				○				○	
蔬菜花卉園芸学特論			1	一色 司郎			○				○		
園芸植物資源開発学特論		1	一色 司郎				○				○		

科目 区分	授業科目の名称	単位数		担当教員	2019年度				2020年度				備 考
					春学期		秋学期		春学期		秋学期		
		必修	選択		前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	
生物科学コース 専門科目	花 卉 園 芸 学 特 論		1	辻田 有紀	○				○				※必修科目を含め48単位以上選択必修
	植物ゲノム育種学特論		1	穴井 豊昭	○				○				
	植物分子遺伝学特論		1	穴井 豊昭		○				○			
	植物ゲノム工学特論		1	渡邊 啓史			○				○		
	植物ゲノム情報科学特論		1	渡邊 啓史				○				○	
	植物ウイルス病学特論		1	大島 一里			○				○		
	植物ウイルス学特論		1	大島 一里				○				○	
	線 虫 学 特 論		1	吉賀 豊司	○				○				
	先端線虫科学特論		1	吉賀 豊司		○				○			
	動物行動生態学特論		1	徳田 誠									集中
	動物行動学特論		1	徳田 誠									集中
	家畜行動学特論		1	江原 史雄			○				○		集中 集中
	家畜管理学特論		1	江原 史雄				○				○	
	作物生産学特論		1	有馬 進									
	作物生態学特論		1	有馬 進									
	生産生態学特論		1	上埜 喜八			○				○		ネット
	循環型農業生産学特論		1	上埜 喜八				○				○	
	果樹園芸学特論		1	福田 伸二	○				○				
	果樹生産学特論		1	福田 伸二		○				○			
	動物遺伝育種学特論		2	和田 康彦									
	施設農業生産学特論		1	田中 宗浩	○				○				
	農地環境工学特論		1	近藤 文義		○				○			
	農地農水計画学特論		1	弓削こずえ			○				○		
	農用先端機械学特論		1	稲葉 繁樹				○				○	
	生物科学演習Ⅰ	2		コース全教員	○	○	○	○					
	生物科学演習Ⅱ	2		コース全教員					○	○	○	○	
特 別 研 究 Ⅰ	8		コース全教員	○	○								
特 別 研 究 Ⅱ	8		コース全教員			○	○						
特 別 研 究 Ⅲ	10		コース全教員					○	○				
特 別 研 究 Ⅳ	10		コース全教員							○	○		
食資源環境科学コース 専門科目	環 境 地 盤 学 特 論		1	近藤 文義	○				○				
	環境分析化学特論		1	上野 大介	○				○				
	環境情報工学特論		1	原口 智和	○				○				
	生産情報処理学特論		1	稲葉 繁樹	○				○				
	先端情報技術学特論		1	稲葉 繁樹		○				○			
	生産エンジニアリング特論		1	稲葉 繁樹			○				○		
	先端環境分析化学特論		1	上野 大介		○				○			
	水資源計画学特論		1	原口 智和		○				○			
	分光統計解析学特論		1	田中 宗浩		○				○			
	土 壌 物 理 学 特 論		1	長 裕幸			○				○		
	水 環 境 工 学 特 論		1	阿南 光政			○				○		
	生産地盤工学特論		1	宮本 英揮			○				○		
	浅海環境工学特論		1	郡山 益実			○				○		

科目区分	授業科目の名称	単位数		担 当 教 員	2019年度				2020年度				備 考
		必修	選択		春学期		秋学期		春学期		秋学期		
					前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	
食資源環境科学コース 専門科目	先 端 地 水 学 特 論		1	長 裕幸				○				○	※必修科目を含め48単位以上選択必修
	利 水 解 析 学 特 論		1	阿南 光政				○				○	
	応 用 水 利 学 特 論		1	弓削こずえ				○				○	
	土 質 工 学 特 論		1	宮本 英揮				○				○	
	干潟生態環境学特論		1	郡山 益実				○				○	
	植物環境応答学特論		1	鈴木 章弘			○				○		
	応用植物生理学特論		1	鈴木 章弘				○				○	
	植物系統分類学特論		1	辻田 有紀		○				○			
	植 物 病 原 学 特 論		1	草場 基章	○				○				
	植 物 感 染 病 学 特 論		1	草場 基章		○				○			
	昆虫分子生物学特論		1	早川 洋一			○				○		
	先端昆虫分子生物学特論		1	早川 洋一				○				○	
	システム生態学特論		1	徳田 誠			○				○		
	進 化 生 態 学 特 論		1	徳田 誠				○				○	
	動物資源開発学特論		1	和田 康彦			○				○		
	農 業 気 象 学 特 論		1	半田 駿	○				○				
	食資源環境科学特別演習Ⅰ	1		コース全教員	○	○							
	食資源環境科学特別演習Ⅱ	1		コース全教員			○	○					
	食資源環境科学特別演習Ⅲ	1		コース全教員					○	○			
	食資源環境科学特別演習Ⅳ	1		コース全教員							○	○	
特 別 研 究 Ⅰ	8		コース全教員	○	○								
特 別 研 究 Ⅱ	8		コース全教員			○	○						
特 別 研 究 Ⅲ	10		コース全教員					○	○				
特 別 研 究 Ⅳ	10		コース全教員							○	○		
生命機能科学コース 専門科目	生 化 学 特 論		1	渡邊 啓一	○				○				※必修科目を含め48単位以上選択必修
	タンパク質科学特論		1	渡邊 啓一		○				○			
	微生物遺伝学特論		1	後藤 正利	○				○				
	真核微生物学特論		1	後藤 正利		○				○			
	応用微生物学特論		1	小林元太,木村圭	○				○				
	微生物学特論		1	小林元太,木村圭		○				○			
	生物有機化学特論		1	上田 敏久	○				○				
	分子生物学特論		1	上田 敏久		○				○			
	バイオセンシング特論		1	宗 伸明	○				○				
	バイオ材料特論		1	宗 伸明		○				○			
	分子細胞生物学特論		1	永野 幸生	○				○				
	細胞情報学特論		1	永野 幸生		○				○			
	食品生化学特論		1	野間 誠司			○				○		
	食糧流通貯蔵学特論		1	野間 誠司				○				○	
	食品科学工学特論		1	林 信行			○				○		
	バイオマス利用特論		1	林信行,出村幹英				○				○	
	海洋資源化学特論		1	濱 洋一郎			○				○		
	グリコバイオロジー特論		1	濱 洋一郎				○				○	
	バイオメンブレン機能特論		1	光武 進			○				○		

科目区分	授業科目の名称	単位数		担 当 教 員	2019年度				2020年度				備 考	
		必修	選択		春学期		秋学期		春学期		秋学期			
					前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半		
生命機能科学コース 専門科目	食 糧 安 全 学 特 論		1	光武 進				○					○	
	分 子 栄 養 学 特 論		1	永尾 晃治				○				○		
	脂 質 生 化 学 特 論		1	永尾 晃治				○					○	
	生命機能科学特別演習Ⅰ	2		コース全教員	○	○	○	○						
	生命機能科学特別演習Ⅱ	2		コース全教員					○	○	○	○		
	特 別 研 究 Ⅰ	8		コース全教員	○	○								
	特 別 研 究 Ⅱ	8		コース全教員				○	○					
	特 別 研 究 Ⅲ	10		コース全教員					○	○				
	特 別 研 究 Ⅳ	10		コース全教員								○	○	
国際・地域マネジメントコース 専門科目	農 業 経 済 学 特 論		1	辻 一成	○					○				集中 集中
	農業ビジネスマネジメント特論		1	辻 一成			○				○			
	ア ジ ア 比 較 農 業 特 論		1	辻 一成										
	食 料 市 場 流 通 特 論		1	白武 義治										
	国際・地域協同組合特論		1	白武 義治	○					○				集中
	地域農業オーガニゼーション特論		1	小林 恒夫			○				○			
	比 較 農 政 学 特 論		1	小林 恒夫										
	農 村 社 会 学 特 論		1	藤村 美穂				○				○		
	人 間 生 態 学 特 論		1	稲岡 司					○				○	※必修科目を含め48単位以上選択必修
	国際環境マネジメント特論		1	稲岡司, 藤村美穂			○				○			
	地域資源マネジメント特論		1	五十嵐 勉			○				○			
	農 村 地 理 学 特 論		1	五十嵐 勉	○					○				
	ルーラル・デベロップメント特論		1	藤村 美穂	○					○				
	生 態 人 類 学 特 論		1	中井 信介					○				○	
	ア ジ ア 地 誌 特 論		1	中井 信介										
	国際・地域マネジメント演習Ⅰ	1		コース全教員	○	○								
	国際・地域マネジメント演習Ⅱ	1		コース全教員				○	○					
	国際・地域マネジメント演習Ⅲ	1		コース全教員						○	○			
	国際・地域マネジメント演習Ⅳ	1		コース全教員								○	○	
	特 別 研 究 Ⅰ	8		コース全教員	○	○								
特 別 研 究 Ⅱ	8		コース全教員				○	○						
特 別 研 究 Ⅲ	10		コース全教員						○	○				
特 別 研 究 Ⅳ	10		コース全教員								○	○		

外国人留学生特別科目

授業科目の名称	単位数	担 当 教 員	2019年度				2020年度				備 考
			春学期		秋学期		春学期		秋学期		
			前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	
ア グ ロ サ イ エ ン ス 特 論	1	辻 田 忠 志	○				○				
アグロサイエンス特別演習	2	辻 田 忠 志	○	○	○	○	○	○	○	○	

国際人材育成科目

科目区分		授業科目の名称	単位数	担 当 教 員	2019 (奇数年)				2020 (偶数年)				備 考
					春学期		秋学期		春学期		秋学期		
					前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	
基礎必修科目		Freshman Seminar (フレッシュマンセミナー)	1	指導教員	○				○			4科目6単位必修	
		Survival Japanese・English (サバイバル日本語・英語)	1	辻田 忠志	○								
		Field Study (フィールドスタディ)	2	指導教員	○ 集中				○ 集中				
		Summer Seminar (サマーセミナー)	2	指導教員	○ 集中				○ 集中				
専門選択必修科目	生物科学	Advanced Crop Husbandry (作物栽培学特論)	1	有馬 進							○	4コースの各コースから1科目1単位以上、合計12単位を修得	
		Advanced Plant Physiology (植物生理学特論)	1	鈴木 章弘			○						
		Advanced Technology for Sustainable Agriculture (持続農業技術特論)	1	上埜 喜八				○					
		Advanced Plant Molecular Biology (植物分子生物学特論)	1	穴井 豊昭						○			
		Advanced Plant Metabolism (植物代謝学特論)	1	石丸 幹二		○							
		Advanced Vegetable Horticulture (野菜園芸特論)	1	一色 司郎	○								
		Advanced Floriculture (花卉園芸学特論)	1	辻田 有紀							○		
		Advanced Horticultural Physiology (園芸生理学特論)	1	古藤田信博			○						
		Advanced Tropical Plant Resources (熱帯植物資源学特論)	1	鄭 紹輝							○		
		Advanced Tropical Plant Improvement (熱帯植物改良学特論)	1	藤田 大輔					○				
		Advanced Animal Genomics (動物ゲノム学特論)	1	和田 康彦			○						
		Advanced Reproductive Engineering (生殖工学特論)	1	山中 賢一							○		
		Advanced Mycology (菌学特論)	1	草場 基章		○							
		Advanced in Plant Virus Evolution (植物ウイルス進化学特論)	1	大島 一里			○						
		Advanced Nematode Science (線虫科学特論)	1	吉賀 豊司									○
		Advanced Insect Molecular Biology (昆虫分子生物学特論)	1	早川 洋一						○			
		Advanced Community Ecology (群集生態学特論)	1	徳田 誠						○			
		Advanced Plant Molecular Breeding (植物分子育種学特論)	1	渡邊 啓史		○							
		Advanced Fruit Tree Molecular Breeding (果樹分子育種学特論)	1	福田 伸二									○
	食資源環境科学	Advanced Environmental Soil Analysis (環境土壌解析学特論)	1	長 裕幸						○			
Advanced Shallow Sea Environment (浅海環境学特論)		1	郡山 益実	○									
Advanced Rural and Environmental Engineering (農村環境工学特論)		1	弓削こずえ	○									

科目区分		授業科目の名称	単位数	担 当 教 員	2019 (奇数年)				2020 (偶数年)				備 考
					春学期		秋学期		春学期		秋学期		
					前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	
専門選択必修科目	食資源環境科学	Advanced Geoenvironmental Engineering (地盤環境工学特論)	1	近藤 文義							○		
		Advanced Environmental Soil Physics (環境土壌物理学特論)	1	宮本 英揮		○							
		Advanced Environmental Chemistry (環境化学特論)	1	上野 大介							○		
		Advanced Irrigation Engineering (灌漑工学特論)	1	原口 智和								○	
		Advanced Hydraulic Engineering (水理水文工学特論)	1	阿南 光政		○							
		Advanced Equipments for Agricultural Production (施設農業生産学特論)	1	田中 宗浩	○								
		Advanced Agricultural Machinery and System (農業機械およびシステム工学特論)	1	稲葉 繁樹			○						
	生命科学機械科学	Advanced Applied Biochemistry (応用生物化学特論)	1	渡邊 啓一		○							
		Advanced Peptide Chemistry (ペプチド化学特論)	1	上田 敏久				○					
		Advanced Applied Chemistry (応用化学特論)	1	宗 伸明							○		
		Advanced Microbial Technology (微生物工学特論)	1	小林 元太				○					
		Advanced Oleo Science (オレオサイエンス特論)	1	永尾 晃治					○				
		Advanced Bioresource Chemistry (生物資源化学特論)	1	濱 洋一郎				○					
		Advanced Membrane Biology (膜生物学特論)	1	光武 進						○			
		Advanced Functional Food Engineering (機能性食品工学特論)	1	林 信行		○							
		Advanced Practical Genomics (実践ゲノム科学特論)	1	永野 幸生							○		
		Advanced Food Preservation Science (食品保蔵科学特論)	1	野間 誠司				○					
		Advanced Molecular Biology for Environmental Response (環境応答分子生物学特論)	1	辻田 忠志								○	
		Advanced Eukaryotic Microbiology (真核微生物学特論)	1	後藤 正利								○	
	国際・地域マネジメント	Advanced Agri-Food Marketing Studies (農産物マーケティング特論)	1	(未定)									
		Advanced Rural Tourism (農村観光特論)	1	五十嵐 勉							○		
		Advanced Human Ecology (人類生態学特論)	1	稲岡 司	○								
		Advanced Rural Sociology (農村社会学特論)	1	藤村 美穂		○							
		Advanced Insular Socio-Economics (島嶼社会経済学特論)	1	(未定)									
		Advanced Ecological Anthropology (生態人類学特論)	1	中井 信介			○						
		Advanced Farming Systems Research (ファームシステム研究特論)	1	辻 一成						○			
	Special Seminar 特別演習	4	指導教員					○	○	○	○	必修	

【生物科学コース】履修モデル

	大学院教養教育 プログラム	自然科学系研究科 共通科目	選 択 科 目			特別研究 (必修)	単位数
			コース必修科目	コース選択科目	自由選択科目		
2 年秋学期B			生物科学演習Ⅱ			特別研究Ⅳ	
2 年秋学期A							
2 年春学期B						特別研究Ⅲ	
2 年春学期A							
1 年秋学期B		知的財産特論（ネット） 生命機能科学特論	生物科学演習Ⅰ	家畜管理学特論 循環型農業生産学特論		特別研究Ⅱ	
1 年秋学期A	データサイエンス特論	知的財産特論（ネット） 生物科学特論 食資源環境科学特論 国際・地域マネジメント特論		動物発生学特論 蔬菜花卉園芸学特論			
1 年春学期B		創成科学融合特論 創成科学PBL特論（集中）		植物分子遺伝学特論 先端線虫科学特論		特別研究Ⅰ	
1 年春学期A	研究・職業倫理特論 情報セキュリティ特論 学術英語特論	創成科学融合特論 創成科学PBL特論（集中）		熱帯農業資源学特論 花卉園芸学特論			
修了要件単位数	4	8	4	8		36	60

【食資源環境科学コース】履修モデル

	大学院教養教育 プログラム	自然科学系研究科 共通科目	選 択 科 目			特別研究 (必修)	単位数
			コース必修科目	コース選択科目	自由選択科目		
2 年秋学期B			食資源環境科学			特別研究Ⅳ	
2 年秋学期A			特別演習Ⅳ				
2 年春学期B			食資源環境科学			特別研究Ⅲ	
2 年春学期A			特別演習Ⅲ				
1 年秋学期B		知的財産特論（ネット） 生命機能科学特論	食資源環境科学 特別演習Ⅱ	先端地水学特論 利水解析学特論 応用水利学特論 土質工学特論 干潟生態環境学特論	農用先端機 械学特論	特別研究Ⅱ	
1 年秋学期A	データサイエンス特論	知的財産特論（ネット） 生物科学特論 食資源環境科学特論 国際・地域マネジメント特論		生産エンジニアリング特論 土壌物理学特論 水環境工学特論 生産地盤工学特論 浅海環境工学特論	農地農水計 画学特論		
1 年春学期B		創成科学融合特論 創成科学PBL特論（集中）	食資源環境科学 特別演習Ⅰ	先端情報技術学特論 先端環境分析化学特論 水資源計画学特論 分光統計解析学特論	創成科学イン ターンシッ プS 農地環境工 学特論	特別研究Ⅰ	
1 年春学期A	研究・職業倫理特論 情報セキュリティ特論 学術英語特論	創成科学融合特論 創成科学PBL特論（集中）		環境地盤学特論 環境分析化学特論 環境情報工学特論 生産情報処理学特論 農業気象学特論	施設農業生 産学特論		
修了要件単位数	4	8	4	7	1	36	60

【生命機能科学コース】履修モデル

	大学院教養教育 プログラム	自然科学系研究科 共通科目	選 択 科 目			特別研究 (必修)	単位数
			コース必修科目	コース選択科目	自由選択科目		
2 年秋学期B			生命機能科学特 別演習Ⅱ			特別研究Ⅳ	
2 年秋学期A							
2 年春学期B						特別研究Ⅲ	
2 年春学期A							
1 年秋学期B		知的財産特論（ネット） 生命機能科学特論	生命機能科学特 別演習Ⅰ	食糧流通貯蔵学特論 バイオマス利用特論 グリコバイオロジー特論 脂質生化学特論		特別研究Ⅱ	
1 年秋学期A	データサイエンス特論	知的財産特論（ネット） 生物科学特論 食資源環境科学特論 国際・地域マネジメント特論		食品生化学特論 食品科学工学特論 海洋資源化学特論 分子栄養学特論			
1 年春学期B		創成科学融合特論 創成科学PBL特論（集中）		真核微生物学特論 微生物学特論 分子生物学特論 バイオ材料特論		特別研究Ⅰ	
1 年春学期A	研究・職業倫理特論 情報セキュリティ特論 学術英語特論	創成科学融合特論 創成科学PBL特論（集中）		微生物遺伝学特論 応用微生物学特論 生物有機化学特論 バイオセンシング特論			
修了要件単位数	4	8	4	8		36	60

【国際・地域マネジメントコース】履修モデル

	大学院教養教育 プログラム	自然科学系研究科 共通科目	選 択 科 目			特別研究 (必修)	単位数
			コース必修科目	コース選択科目	自由選択科目		
2 年秋学期B			国際・地域マネ			特別研究Ⅳ	
2 年秋学期A			ジメント演習Ⅳ				
2 年春学期B			国際・地域マネ			特別研究Ⅲ	
2 年春学期A			ジメント演習Ⅲ				
1 年秋学期B		知的財産特論（ネット） 生命機能科学特論		生態人類学特論		特別研究Ⅱ	
1 年秋学期A	データサイエンス特論	知的財産特論（ネット） 生物科学特論 食資源環境科学特論 国際・地域マネジメント特論	国際・地域マネ ジメント演習Ⅱ	農村社会学特論			
1 年春学期B		創成科学融合特論 創成科学PBL特論（集中）	国際・地域マネ ジメント演習Ⅰ	農業ビジネスマネジメ ント特論 地域農業オーガニゼー ション特論 国際環境マネジメント 特論		特別研究Ⅰ	
1 年春学期A	研究・職業倫理特論 情報セキュリティ特論 学術英語特論	創成科学融合特論 創成科学PBL特論（集中）		農業経済学特論 国際・地域共同組合特論 農業地理学特論			
修了要件単位数	4	8	4	8		36	60

【生物科学コース】カリキュラムマップ

学位授与 の 方 針	①所属する専攻やコースなどの専門分野における学問領域において、先端の高度な専門知識を身につけている。	②研究活動を通して実践的な知識を身につけるとともに、科学的思考力と洞察力を養い、専門分野及び関連する分野における諸問題の解決に自律的に取り組む能力を身につけている。	③専門分野の枠を超えて、幅広い教養と広範な視野をもち、地域や社会に貢献するための意欲と実践力を身につけている。	標準修得 単 位 数
2 年秋期 B	特別研究Ⅳ	特別研究Ⅳ 生物科学演習Ⅱ		5
2 年秋期 A	特別研究Ⅳ	特別研究Ⅳ 生物科学演習Ⅱ		5
2 年春期 B	特別研究Ⅲ	特別研究Ⅲ 生物科学演習Ⅱ		5
2 年春期 A	特別研究Ⅲ	特別研究Ⅲ 生物科学演習Ⅱ		5
1 年秋期 B	特別研究Ⅱ 熱帯作物生理学特論 動物ゲノム情報学特論 動物繁殖生理学特論 園芸植物資源開発学特論 植物ゲノム情報科学特論 植物ウイルス学特論 家畜管理学特論 農用先端機械学特論	特別研究Ⅱ 生物科学演習Ⅰ	生命機能科学特論	10
1 年秋期 A	特別研究Ⅱ 熱帯作物改良学特論 動物発生学特論 蔬菜花卉園芸学特論 植物ゲノム工学特論 植物ウイルス病学特論 家畜行動学特論 農地農水計画学特論	特別研究Ⅱ 生物科学演習Ⅰ	生物科学特論 食資源環境科学特論 国際・地域マネジメント特論	10
1 年春期 B	特別研究Ⅰ 熱帯資源植物利用学特論 植物分子遺伝学特論 先端線虫科学特論 果樹生産学特論 農地環境工学特論	特別研究Ⅰ 生物科学演習Ⅰ	創成科学融合特論 創成科学PBL特論	10
1 年春期 A	特別研究Ⅰ 熱帯農業資源学特論 花卉園芸学特論 植物ゲノム育種学特論 線虫学特論 果樹園芸学特論 施設農業生産学特論	特別研究Ⅰ 生物科学演習Ⅰ	研究・職業倫理特論 情報セキュリティ特論 学術英語特論 創成科学融合特論 創成科学PBL特論	10

【食資源環境科学コース】カリキュラムマップ

学位授与 の 方 針	①所属する専攻やコースなどの専門分野における学問領域において、先端の高度な専門知識を身につけている。	②研究活動を通して実践的な知識を身につけるとともに、科学的思考力と洞察力を養い、専門分野及び関連する分野における諸問題の解決に自律的に取り組む能力を身につけている。	③専門分野の枠を超えて、幅広い教養と広範な視野をもち、地域や社会に貢献するための意欲と実践力を身につけている。	標準修得 単 位 数
2 年秋期 B		特別研究Ⅳ	特別研究Ⅳ	5
		食資源環境科学特別演習Ⅳ	食資源環境科学特別演習Ⅳ	
			創成科学インターンシップS	
2 年秋期 A		特別研究Ⅳ	特別研究Ⅳ	5
		食資源環境科学特別演習Ⅳ	食資源環境科学特別演習Ⅳ	
			創成科学インターンシップS	
2 年春期 B		特別研究Ⅲ	特別研究Ⅲ	5
		食資源環境科学特別演習Ⅲ	食資源環境科学特別演習Ⅲ	
			創成科学インターンシップS	
2 年春期 A		特別研究Ⅲ	特別研究Ⅲ	5
		食資源環境科学特別演習Ⅲ	食資源環境科学特別演習Ⅲ	
			創成科学インターンシップS	
1 年秋期 B	知的財産特論	特別研究Ⅱ	特別研究Ⅱ	10
		食資源環境科学特別演習Ⅱ	食資源環境科学特別演習Ⅱ	
		先端地水学特論	創成科学インターンシップS	
		利水解析学特論		
		応用水文学特論		
		土質工学特論		
1 年秋期 A	データサイエンス特論	特別研究Ⅱ	特別研究Ⅱ	10
	ダイバーシティ・人権教育特論	食資源環境科学特別演習Ⅱ	食資源環境科学特別演習Ⅱ	
	知的財産特論	生産エンジニアリング特論	創成科学インターンシップS	
	食資源環境科学特論	土壌物理学特論		
		水環境工学特論		
		生産地盤工学特論		
		浅海環境工学特論		
1 年春期 B	創成科学融合特論	特別研究Ⅰ	特別研究Ⅰ	10
	創成科学PBL特論	食資源環境科学特別演習Ⅰ	食資源環境科学特別演習Ⅰ	
		先端情報技術学特論	創成科学インターンシップS	
		先端環境分析化学特論		
		水資源計画学特論		
1 年春期 A	研究・職業倫理特論	特別研究Ⅰ	特別研究Ⅰ	10
	情報セキュリティ特論	食資源環境科学特別演習Ⅰ	食資源環境科学特別演習Ⅰ	
	創成科学融合特論	環境地盤学特論	創成科学インターンシップS	
	創成科学PBL特論	環境分析化学特論		
		環境情報工学特論		
		生産情報処理学特論		
		農業気象学特論		

【生命機能科学コース】カリキュラムマップ

学位授与 の 方 針	①所属する専攻やコースなどの専門分野における学問領域において、先端の高度な専門知識を身につけている。	②研究活動を通して実践的な知識を身につけるとともに、科学的思考力と洞察力を養い、専門分野及び関連する分野における諸問題の解決に自律的に取り組む能力を身につけている。	③専門分野の枠を超えて、幅広い教養と広範な視野をもち、地域や社会に貢献するための意欲と実践力を身につけている。	標準修得 単 位 数
2 年秋期 B	特別研究Ⅳ 生命機能科学特別演習Ⅱ	特別研究Ⅳ 生命機能科学特別演習Ⅱ		5
2 年秋期 A	特別研究Ⅳ 生命機能科学特別演習Ⅱ	特別研究Ⅳ 生命機能科学特別演習Ⅱ		5
2 年春期 B	特別研究Ⅲ 生命機能科学特別演習Ⅱ	特別研究Ⅲ 生命機能科学特別演習Ⅱ		5
2 年春期 A	特別研究Ⅲ 生命機能科学特別演習Ⅱ	特別研究Ⅲ 生命機能科学特別演習Ⅱ		5
1 年秋期 B	特別研究Ⅱ 生命機能科学特別演習Ⅰ 食糧流通貯蔵学特論 バイオマス利用特論 グリコバイオロジー特論 脂質生化学特論	特別研究Ⅱ 生命機能科学特別演習Ⅰ	知的財産特論 生命機能科学特論	10
1 年秋期 A	特別研究Ⅱ 生命機能科学特別演習Ⅰ 食品生化学特論 食品科学工学特論 海洋資源化学特論 分子栄養学特論	特別研究Ⅱ 生命機能科学特別演習Ⅰ	生物科学特論 食資源環境科学特論 国際・地域マネジメント特論 データサイエンス特論 知的財産特論	10
1 年春期 B	特別研究Ⅰ 生命機能科学特別演習Ⅰ 真核微生物学特論 微生物学特論 分子生物学特論 バイオ材料特論	特別研究Ⅰ 生命機能科学特別演習Ⅰ	創成科学融合特論 創成科学PBL特論	10
1 年春期 A	特別研究Ⅰ 生命機能科学特別演習Ⅰ 微生物遺伝学特論 応用微生物学特論 生物有機化学特論 バイオセンシング特論	特別研究Ⅰ 生命機能科学特別演習Ⅰ	創成科学融合特論 創成科学PBL特論 研究・職業倫理特論 情報セキュリティ特論 学術英語特論	10

【国際・地域マネジメントコース】カリキュラムマップ

学位授与 の 方 針	①所属する専攻やコースなどの専門分野における学問領域において、先端の高度な専門知識を身につけている。	②研究活動を通して実践的な知識を身につけるとともに、科学的思考力と洞察力を養い、専門分野及び関連する分野における諸問題の解決に自律的に取り組む能力を身につけている。	③専門分野の枠を超えて、幅広い教養と広範な視野をもち、地域や社会に貢献するための意欲と実践力を身につけている。	標準修得 単 位 数
2 年秋期 B		特別研究Ⅳ 国際・地域マネジメント演習Ⅳ		5
2 年秋期 A		特別研究Ⅳ 国際・地域マネジメント演習Ⅳ		5
2 年春期 B		特別研究Ⅲ 国際・地域マネジメント演習Ⅲ		5
2 年春期 A		特別研究Ⅲ 国際・地域マネジメント演習Ⅲ		5
1 年秋期 B	生態人類学特論 人間生態学特論	特別研究Ⅱ 国際・地域マネジメント演習Ⅱ	生命機能科学特論	10
1 年秋期 A	食料市場流通特論 農村社会学特論 比較農政学特論	特別研究Ⅱ 国際・地域マネジメント演習Ⅱ	国際・地域マネジメント特論 食資源環境科学特論 生物科学特論 データサイエンス特論	10
1 年春期 B	農業ビジネスマネジメント特論 地域農業オーガニゼーション特論 国際環境マネジメント特論 アジア比較農業特論	特別研究Ⅰ 国際・地域マネジメント演習Ⅰ	創成科学融合特論 創成科学PBL特論	10
1 年春期 A	農業経済学特論 国際・地域共同組合特論 農業地理学特論 ルーラル・ディベロップメント特論	特別研究Ⅰ 国際・地域マネジメント演習Ⅰ	創成科学融合特論 創成科学PBL特論	10

Ⅳ 農業技術経営管理学コース(副コース)について

Sub-course: Agricultural MOT (Management Of Technology) Training Course

この副コースは、高度な農業技術と経営管理能力を有する人材の育成を目的とする実践的な教育カリキュラム（農業版MOT教育）からなり、農業法人や法人化を志向する集落営農組織等における中核的経営者、農政や農業団体における営農指導者、農業関連分野に新規に参入する企業等における指導的立場で働く企業人、及びアジアの諸地域におけるアグリビジネス産業の発展に寄与できる人材等の育成を目指すプログラムです。

この教育プログラムでは、講義科目8科目以上、農業技術経営管理学概論1単位、農業技術経営管理学演習3単位及び修了研究3単位の合計15単位以上の修得によって、農学修士に加えて「佐賀大学農業技術経営管理学コース」の修了証及び農業技術経営管理士の称号が授与されます。

学習や修了研究に際しては、主コースの指導教員に加えて、副コースの指導教員や実務経験を有する特任教員等による支援を行います。

1 佐賀大学大学院農学研究科生物資源科学専攻農業技術経営管理学コースに関する要項

(平成22年4月1日制定)

(趣 旨)

第1 この要項は、佐賀大学大学院農学研究科履修細則（平成16年4月1日制定）第Ⅱ条第6項の規定に基づき、佐賀大学大学院農学研究科生物資源科学専攻農業技術経営管理学コース（以下「副コース」という。）に関し、必要な事項を定める。

(履修の手続)

第2 副コースを履修しようとする者は、所定の期日までに、履修願その他必要な書類を学長に提出しなければならない。

(修了の認定)

第3 副コースの修了要件を満たした者は、所定の期日までに、修了認定申請書（別記様式1）を学長に提出しなければならない。

2 学長は、研究科委員会の議を経て、副コースの修了を認定し、農業技術経営管理士の称号を授与する。

第4 学長は、副コースの修了の認定を受けた者に、修了時に修了証（別記様式2）を授与する。

(事 務)

第5 副コースに関する事務は、学務部教務課が行う。

(雑 則)

第6 この要項に定めるもののほか、副コースに関し必要な事項は、研究科委員会が別に定める。

附 則

1 この要項は、平成22年4月1日から実施する。

2 平成22年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については、この要項を適用しない。

別記様式 1 (第 3 関係)

修了認定申請書

年 月 日

佐賀大学長
〇 〇 〇 〇 様

学籍番号

氏 名

佐賀大学大学院農学研究科生物資源科学専攻農業技術経営管理学科
コースに関する要項第 3 第 1 項により、下記コースの修了認定を申
請します。

記

農業技術経営管理学科コース

別記様式 2 (第 4 関係)

第 号

修 了 証

氏 名

生年月日

佐賀大学大学院農学研究科生物資源科学専攻農業技術経営管理学科
コースを修了したことを証し、農業技術経営管理士の称号を授与す
る。

年 月 日

佐賀大学長 〇 〇 〇 〇 (印)

2 授業科目，単位数，開講年次

科目区分	部門	授 業 科 目	単 位 数	担 当 教 員	2019年度				2020年度				備 考	
					春学期		秋学期		春学期		秋学期			
					前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半		
副コース（農業技術経営管理学コース）専門科目	経営 管理 部門	(農業技術経営管理学コース)												
		農 業 経 済 学 特 論	1	辻 一 成	○				○					集中 集中
		食 料 市 場 流 通 特 論	1	(白武 義治)										
		比 較 農 政 学 特 論	1	(小林 恒夫)										
		農業ビジネスマネジメント特論	1	辻 一 成		○				○			※4単位 選択必修	
		地域農業オーガニゼーション特論	1	(小林 恒夫)		○				○				
		農 村 地 理 学 特 論	1	五十嵐 勉	○				○				集中	
		生 態 人 類 学 特 論	1	中 井 信 介				○				○		
		農 村 社 会 学 特 論	1	藤 村 美 穂				○				○		
		ア ジ ア 比 較 農 業 特 論	1	辻 一 成										
	国際環境マネジメント特論	1	稲 岡 司		○					○				
	技 術 管 理 部 門	熱帯農業資源学特論	1	鄭 紹 輝	○					○			※4単位 選択必修	
		熱帯作物改良学特論	1	藤 田 大 輔				○				○		
		動物繁殖生理学特論	1	山 中 賢 一					○					○
		植物分子遺伝学特論	1	穴 井 豊 昭		○					○			
		植物ゲノム工学特論	1	渡 邊 啓 史				○				○	ネット授業	
		蔬菜花卉園芸学特論	1	一 色 司 郎				○				○		
		花 卉 園 芸 学 特 論	1	辻 田 有 紀	○					○				
		植物感染病学特論	1	草 場 基 章		○					○			
		植物ウイルス病学特論	1	大 島 一 里				○				○		
		線 虫 学 特 論	1	吉 賀 豊 司	○					○				
		システム生態学特論	1	徳 田 誠				○				○		
		昆虫分子生物学特論	1	早 川 洋 一				○				○		
		動物遺伝育種学特論	2	和 田 康 彦										
		環境情報工学特論	1	原 口 智 和	○						○			
		応 用 水 利 学 特 論	1	弓 削 こ ず え						○			○	
		利 水 解 析 学 特 論	1	阿 南 光 政						○			○	
		農地環境工学特論	1	近 藤 文 義		○					○			
		土 壌 物 理 学 特 論	1	長 裕 幸				○				○		
		浅海環境工学特論	1	郡 山 益 実				○				○		
		生産地盤工学特論	1	宮 本 英 揮				○				○		
		環境分析化学特論	1	上 野 大 介	○					○				
		果 樹 生 産 学 特 論	1	福 田 伸 二		○					○			
		施設農業生産学特論	1	田 中 宗 浩	○						○			
		応用植物生理学特論	1	鈴 木 章 弘						○			○	
		家 畜 管 理 学 特 論	1	江 原 史 雄						○			○	
		作物生産学特論	1	有 馬 進										
		農用先端機械学特論	1	稲 葉 繁 樹						○			○	
		生 産 生 態 学 特 論	1	上 埜 喜 八				○				○		
		微 生 物 学 特 論	1	小林元太, 木村圭		○					○			
		微生物遺伝学特論	1	後 藤 正 利	○					○				
	生物有機化学特論	1	上 田 敏 久	○						○				
	海洋資源化学特論	1	濱 洋 一 郎				○				○			
	バイオセンシング特論	1	宗 伸 明	○						○				
	食糧流通貯蔵学特論	1	野 間 誠 司						○			○		
	食品科学工学特論	1	林 信 行						○			○		
脂 質 生 化 学 特 論	1	永 尾 晃 治						○			○			
	農業技術経営管理学概論	1	辻 一 成 他	○					○			※7単位 必修		
	農業技術経営管理学演習	3	辻 一 成 他	○	○	○	○	○	○	○	○			
	修了研究	3	辻一成・五十嵐勉 他	○	○	○	○	○	○	○	○			

備考： は主コースの修了要件に含む

【農業技術経営管理学コース】履修モデルⅠ：生物科学コース

	経営管理部門	技術管理部門	必修
2年秋学期B			修了研究
2年秋学期A			
2年春学期B			
2年春学期A			
1年秋学期B	生態人類学特論	動物繁殖生理学特論	農業技術経営管理学演習
1年秋学期A	農村社会学特論	植物ウイルス病学特論	農業技術経営管理学演習
1年春学期B	農業ビジネスマネジメント特論 地域農業オーガニゼーション特論 国際環境マネジメント特論	植物分子遺伝学特論	農業技術経営管理学演習
1年春学期A	農業経済学特論 農村地理学特論	熱帯農業資源学特論	農業技術経営管理学概論
修了要件単位数	4	4	3

【農業技術経営管理学コース】履修モデルⅡ：食資源環境科学コース

	経営管理部門	技術管理部門	必修
2年秋学期B			修了研究
2年秋学期A			
2年春学期B			
2年春学期A			
1年秋学期B	生態人類学特論	応用水利学特論 利水解析学特論 農用先端機械学特論	農業技術経営管理学演習
1年秋学期A	農村社会学特論	土壌物理学特論 浅海環境工学特論 生産地盤工学特論	農業技術経営管理学演習
1年春学期B	農業ビジネスマネジメント特論 地域農業オーガニゼーション特論 国際環境マネジメント特論	農地環境工学特論	農業技術経営管理学演習
1年春学期A	農業経済学特論 農村地理学特論	環境情報工学特論 環境分析化学特論 施設農業生産学特論	農業技術経営管理学概論
修了要件単位数	4	4	3

【農業技術経営管理学コース】履修モデルⅢ：生命機能科学コース

	経営管理部門	技術管理部門	必修
2年秋学期B			修了研究
2年秋学期A			
2年春学期B			
2年春学期A			
1年秋学期B	生態人類学特論	食糧流通貯蔵学特論 脂質生化学特論	農業技術経営管理学演習
1年秋学期A	農村社会学特論	海洋資源化学特論 食品科学工学特論	農業技術経営管理学演習
1年春学期B	農業ビジネスマネジメント特論 地域農業オーガニゼーション特論 国際環境マネジメント特論	微生物学特論	農業技術経営管理学演習
1年春学期A	農業経済学特論 農村地理学特論	微生物遺伝学特論 生物有機化学特論 バイオセンシング特論	農業技術経営管理学概論
修了要件単位数	4	4	3

【農業技術経営管理学コース】履修モデルⅣ：国際・地域マネジメントコース

	経営 管 理 部 門	技 術 管 理 部 門	必 修
2 年秋学期 B			修了研究
2 年秋学期 A			
2 年春学期 B			
2 年春学期 A			
1 年秋学期 B	生態人類学特論	農用先端機械学特論	農業技術経営管理学演習
1 年秋学期 A	農村社会学特論	システム生態学特論	農業技術経営管理学演習
1 年春学期 B	農業ビジネスマネジメント特論 地域農業オーガニゼーション特論 国際環境マネジメント特論	農地環境工学特論	農業技術経営管理学演習
1 年春学期 A	農業経済学特論 農村地理学特論	熱帯農業資源学特論	農業技術経営管理学概論
修了要件単位数	4	4	3

3 副コース修了研究論文提出要領・概要記載要領

修了研究論文及び修了研究論文の概要は、下記の要領で作成し、所定の期日までに農学部教務係に提出すること。

- 1 修了研究論文の概要（A4判，1頁，日本語又は英語で記載）は，1部を別紙の様式で作成し，1月14日（当日が土曜日又は日曜日に当たるときは，その直前の金曜日とする。）までに農学部教務係に提出すること。
- 2 修了研究論文は，1月14日（当日が土曜日又は日曜日に当たるときは，その直前の金曜日とする。）までに2部を指導教員に提出すること。
- 3 修了認定申請書（別記様式1）は，所定の期日までに農学部教務係に提出すること。

別 紙

修了研究論文概要記載要領

(A 4 判)	1.5cmアケル	
題 目 (中央に書く)		
農業技術経営管理学コース 学籍番号 氏 名		
2 cmアケル	1 字アケル 本 文 (注 意 事 項) この概要は、印刷配布されるものであり、統一のとれた読みやすいものにするため記載に当たっては以下のことに注意してください。 1 用紙のサイズ及び形体は、A 4 判とし、ワードプロセッサ等を使用してください。 2 本文・題目等は、線で囲む必要はありません。 3 図表は適宜挿入しても構いません。 4 印刷されるので、概要を提出する前に指導教員に目を通してもらい、誤字・脱字等の誤りがないように注意してください。	1 cmアケル
	1.5cmアケル	

V 佐賀大学大学院農学研究科規則

(趣 旨)

第1条 佐賀大学大学院農学研究科（以下「研究科」という。）に関する事項は、国立大学法人 佐賀大学基本規則（平成16年4月1日制定）、佐賀大学大学院学則（平成16年4月1日制定。以下「大学院学則」という。）及び佐賀大学学位規則（平成16年4月1日制定。以下「学位規則」という。）に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

(研究科の目的)

第1条の2 研究科は、地域社会及び国際社会の発展に必要とされる農学上の諸課題を解決する能力、高い倫理意識及び国際的視野を有し、多方面において先端的・応用的・実用的な能力を発揮し、活躍できる創造性豊かな高度専門職業人を養成することを目的とする。

(専攻及びコース)

第2条 研究科に次の専攻及びコースを置く。

専 攻 名	コ ー ス 名
生物資源科学専攻	生物科学コース，食資源環境科学コース，生命機能科学コース，国際・地域マネジメントコース

2 専攻の目的は、各コースにおいて次に掲げるとおりとする。

- (1) 生物科学コース 生物科学の領域における先端の高度な専門知識を有し、生物資源の生産と制御に関する諸問題の解決に自律的に取り組む能力のある人材を養成すること。
- (2) 食資源環境科学コース 食資源環境科学の領域における先端の高度な専門知識を有し、農業生産や環境に関する諸問題の解決に自律的に取り組む能力のある人材を養成すること。
- (3) 生命機能科学コース 生命機能科学の領域における先端の高度な専門知識を有し、食料や健康に関する諸問題の解決に自律的に取り組む能力のある人材を養成すること。
- (4) 国際・地域マネジメントコース 国際・地域マネジメントの領域における先端の高度な専門知識を有し、農学を基盤とした地域振興と国際協力に関する諸問題の解決に自律的に取り組む能力のある人材を養成すること。

(副コース)

第2条の2 前条に規定するもののほか、研究科に副コースとして農業技術経営管理学コースを置く。

(指導教員)

第3条 学生の専攻分野の研究を指導するため、学生ごとに主指導教員1人及び副指導教員2人を置く。

(授業科目、単位数及び履修方法)

第4条 授業科目、単位数及び履修方法は、佐賀大学大学院農学研究科履修細則（平成16年4月1日制定）に定めるところによる。

2 教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は

研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

(他の大学院等における授業科目の履修)

第5条 学生は、大学院学則第14条の規定に基づき、他の大学院及び外国の大学院の授業科目を履修することができる。

2 指導教員は、研究指導上必要があると認めるときは、学生が他コース及び他の研究科の授業科目を履修することを認めることができる。

(入学前の既修得単位の認定)

第6条 研究科が必要と認めたときは、大学院学則第15条の規定に基づき、学生が大学院に入学する前に大学院又は他の大学院において履修した授業科目について修得した単位を、大学院に入学した後の大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

(他の大学院等における研究指導)

第7条 学生は、大学院学則第17条の規定に基づき、他の大学院又は研究所等（外国の大学院又は研究所等を含む。）において、必要な研究指導を受けることができる。ただし、当該研究指導を受ける期間は1年を超えないものとする。

2 指導教員は、研究指導上必要があると認めるときは、学生が他の研究科において必要な研究指導を受けることを認めることができる。ただし、当該研究指導を受ける期間は1年を超えないものとする。

(履修手続)

第8条 履修しようとする授業科目については、各学期とも所定の期間に定められた方法により履修手続をしなければならない。ただし、学期の中途から開始される授業科目については、その都度履修手続をしなければならない。

(成績判定及び単位の授与)

第8条の2 授業科目を履修した場合には、成績判定の上、合格した者に対して所定の単位を与える。

2 成績判定は、平素の学修状況、学修報告、論文及び試験等によって行う。

3 成績は、秀・優・良・可・不可の評語をもって表わし、秀・優・良・可を合格とし、不可は不合格とする。

4 前項の規定にかかわらず、成績の判定に当たり、前項に規定する評語により難いと佐賀大学教育委員会が認めた授業科目においては、合又は不可の評語をもって表すことができるものとし、合を合格とし、不可は不合格とする。

(試験)

第9条 試験は、授業科目の履修期間終了時に、当該授業科目の担当教員が行う。

(学位論文の提出)

第10条 学位規則第7条第1項の規定により、修士の学位の授与を受けようとする者は、申請書類とともに、学位論文を指定した期日までに研究科長に提出しなければならない。

(学位論文審査員)

第11条 佐賀大学大学院農学研究科委員会（以下「研究科委員会」という。）は、修士論文の審査のた

め、研究科の教員及び他の研究科の教員の中から3人以上の学位論文審査員（以下「審査員」という。）を選出するものとする。

2 前項の審査員のうち、1人を主査とし、研究科の教員のうちから選出しなければならない。

3 第1項の規定にかかわらず、学位論文の審査に当たって必要があるときは、研究科委員会の議を経て、他の大学院又は研究所等（外国の大学院又は研究所等を含む。）の教員等を審査員に加えることができる。

（入学者の選考）

第12条 入学者の選考は、その志望する専攻を修めるために必要な学力及び能力について行う。

（研究生及び科目等履修生）

第13条 研究科の教育研究に支障のないときは、研究科委員会の議を経て、研究生及び科目等履修生の入学を認めることができる。

2 研究生及び科目等履修生として入学できる者は、次の各号のいずれかに該当するものとする。

（1）学校教育法（昭和22年法律第26号）第83条に定める大学を卒業した者

（2）研究科委員会において前号と同等以上の学力があると認められた者

（特別研究学生）

第14条 研究科は、他の大学院又は外国の大学院等との協議に基づき、他の大学院等の学生が特別研究学生として研究指導を受けることを認めることができる。

（特別聴講学生）

第15条 研究科は、他の大学院又は外国の大学院等との協議に基づき、他の大学院等の学生が特別聴講学生として授業科目を履修することを認めることができる。

（転入学又は再入学を許可された者の既修得単位等の認定）

第16条 研究科に転入学又は再入学を許可された者が、佐賀大学の大学院又は他の大学院（外国の大学院を含む。）で既に修得した単位数及び在学した期間は、研究科委員会の議を経て通算することができる。

（雑 則）

第17条 この規則に定めるもののほか、研究科に関し、必要な事項は、研究科委員会において定める。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則（平成19年2月16日改正）

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成19年7月20日改正）

1 この規則は、平成19年7月20日から施行し、平成19年4月1日から適用する。

2 平成19年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成22年3月19日改正）

- 1 この規則は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 平成22年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成22年11月24日改正）

この規則は、平成22年11月24日から施行する。

附 則（平成27年3月25日改正）

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則（平成27年12月2日改正）

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則（平成30年3月28日改正）

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則（平成31年2月27日改正）

- 1 この規則は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 平成31年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

VI 佐賀大学大学院農学研究科履修細則

(趣 旨)

第1条 佐賀大学大学院農学研究科規則（平成16年4月1日制定。以下「研究科規則」という。）第4条の規定に基づく佐賀大学大学院農学研究科の授業科目、単位数及び履修方法は、この細則の定めるところによる。

(授業科目、単位数及び履修方法)

第2条 授業科目及び単位数は、別表Ⅰから別表Ⅳまでに定めるとおりとする。

- 2 専攻に、地域社会及び国際社会の発展に必要とされる農学上の諸課題を解決できる国際的で高度な職業人を育成するため、教育研究指導を英語で行う国際人材育成プログラムを設ける。
- 3 学生（外国人留学生を含み、国際人材育成プログラムの学生を除く。）は、別表Ⅰに定める大学院教養教育プログラム4単位以上、自然科学系研究科共通科目8単位以上及び専門科目のうち各コースに指定される必修科目（特別研究36単位を含む。）を含む48単位以上、計60単位以上修得しなければならない。ただし、外国人留学生については、別表Ⅲに定める授業科目の単位を修了に要する単位に含めることができる。
- 4 国際人材育成プログラムの学生は、別表Ⅰに定める授業科目から創成科学インターンシップⅡ2単位及び特別研究36単位、別表Ⅱに定める国際人材育成科目から基礎必修科目6単位、専門選択必修科目から12単位（4コースの各コースから1科目1単位以上を修得）及び特別演習4単位を含む、計60単位以上修得しなければならない。ただし、別表Ⅰに定める大学院教養教育プログラム及び自然科学系研究科共通科目のうち本文に規定する授業科目以外の授業科目並びに他研究科の授業科目を履修し、単位を修得した場合は、8単位を限度として専門選択必修科目により修得すべき修了に要する単位に含めることができる。
- 5 農業技術経営管理学コース（以下「副コース」という。）を履修する学生は、別表Ⅳに定める各部門の専門科目から選択必修科目8単位以上、農業技術経営管理学概論1単位、農業技術経営管理学演習3単位及び修了研究3単位、計15単位以上修得しなければならない。ただし、国際人材育成プログラムの学生は、副コースを履修することができないものとする。
- 6 この細則に定めるもののほか、副コースに関し必要な事項は、別に定める。

(単位認定)

第3条 大学院教養教育プログラム及び自然科学系研究科共通科目から前条に規定する要件を超えて修得した単位、研究科規則第5条の規定により指導教員が必要と認めて履修した他コース、他研究科又は他大学院（外国の大学院を含む。）の授業科目の単位は、次項により修得した授業科目の単位を含めて4単位を限度として、修了に要する単位に含めることができる。

- 2 研究科規則第6条の規定により修得した授業科目の単位は、10単位を限度として修了に要する単位に含めることができる。
- 3 前2項の規定は、国際人材育成プログラムの学生には適用しない。

附 則

この細則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成16年10月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この細則は、平成19年4月1日から施行する。
- 2 平成19年3月31日において現に在学する者（以下この項において「在学者」という。）及び平成19年4月1日以降において在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則

この細則は、平成19年10月1日から施行する。

附 則

- 1 この細則は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 平成22年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成24年1月25日改正）

- 1 この細則は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 平成24年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成24年4月1日以降において在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成26年1月22日改正）

- 1 この細則は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 平成26年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成26年4月1日以降において在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成27年1月21日改正）

- 1 この細則は、平成27年4月1日から施行する。
- 2 平成27年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成27年3月5日改正）

- 1 この細則は、平成27年4月1日から施行する。
- 2 平成27年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成28年3月4日改正）

- 1 この細則は、平成28年3月4日から施行する。

- 2 平成28年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成28年3月20日改正）

- 1 この細則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 平成28年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成29年2月8日改正）

- 1 この細則は、平成29年4月1日から施行する。
- 2 平成29年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成29年3月21日改正）

- 1 この細則は、平成29年4月1日から施行する。
- 2 平成29年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成30年2月14日改正）

- 1 この細則は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 平成30年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成31年3月7日改正）

- 1 この細則は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 平成31年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

別表 I (第2条関係)

生物資源科学専攻

科目区分	コース名	授業科目	単位数	備考
大学院教養教育 プログラム		★研究・職業倫理特論	1	★を付した授業科目を含め4単位以上選択必修
		★情報セキュリティ特論	1	
		★データサイエンス特論	1	
		学術英語特論	1	
		ダイバーシティ・人権教育特論	1	
		キャリアデザイン特論	1	
		多文化共生理解	1	
自然科学系研究 科 共 通 科 目		★創成科学融合特論	2	★を付した授業科目を含め8単位以上選択必修 ☆生物科学特論は、生物科学コース必修 ☆食資源環境科学特論は、食資源環境科学コース必修 ☆生命機能科学特論は、生命機能科学コース必修 ☆国際・地域マネジメント特論は、国際・地域マネジメントコース必修
		★創成科学PBL特論	2	
		★知的財産特論	2	
		理工学概論	1	
		医学・看護学概論	1	
		創成科学インターンシップS	1	
		創成科学インターンシップL	2	
		理工学特別講義	2	
		数学概論	1	
		物理学概論	1	
		知能情報工学概論	1	
		材料化学特論	1	
		機械工学概論	1	
		電気電子工学概論	1	
		都市工学通論	1	
		人体構造機能学概論	1	
		人体構造実習	1	
		看護理論	1	
		☆生物科学特論	1	
		☆食資源環境科学特論	1	
		☆生命機能科学特論	1	
		☆国際・地域マネジメント特論	1	
専 門 科 目	生物科学	熱帯農業資源学特論	1	★を付した授業科目を含め48単位以上選択必修
		熱帯資源植物利用学特論	1	
		熱帯作物改良学特論	1	
		熱帯作物生理学特論	1	
		動物ゲノム情報学特論	1	
		動物遺伝育種学特論	2	
		動物発生学特論	1	
		動物繁殖生理学特論	1	
		蔬菜花卉園芸学特論	1	
		園芸植物資源開発学特論	1	
		花卉園芸学特論	1	
		植物ゲノム育種学特論	1	
		植物分子遺伝学特論	1	
		植物ゲノム工学特論	1	
		植物ゲノム情報科学特論	1	
		植物ウイルス病学特論	1	
		植物ウイルス学特論	1	
		線虫学特論	1	
		先端線虫科学特論	1	
		動物行動生態学特論	1	
		動物行動学特論	1	
		家畜行動学特論	1	
		家畜管理学特論	1	
		作物生産学特論	1	

		作物生態学特論	1	
		生産生態学特論	1	
		循環型農業生産学特論	1	
		果樹園芸学特論	1	
		果樹生産学特論	1	
		施設農業生産学特論	1	
		農地環境工学特論	1	
		農地農水計画学特論	1	
		農用先端機械学特論	1	
		★生物科学演習Ⅰ	2	
		★生物科学演習Ⅱ	2	
		★特別研究Ⅰ	8	
		★特別研究Ⅱ	8	
		★特別研究Ⅲ	10	
		★特別研究Ⅳ	10	
専 門 科 目	食資源環境科学	環境地盤学特論	1	★を付した授業科目を含め48単位以上選択必修
		環境分析化学特論	1	
		先端環境分析化学特論	1	
		環境情報工学特論	1	
		水資源計画学特論	1	
		生産情報処理学特論	1	
		先端情報技術学特論	1	
		生産エンジニアリング特論	1	
		分光統計解析学特論	1	
		土壌物理学特論	1	
		先端地水学特論	1	
		水環境工学特論	1	
		利水解析学特論	1	
		生産地盤工学特論	1	
		土質工学特論	1	
		浅海環境工学特論	1	
		干潟生態環境学特論	1	
		応用水利学特論	1	
		植物環境応答学特論	1	
		応用植物生理学特論	1	
		植物系統分類学特論	1	
		植物病原学特論	1	
		植物感染病学特論	1	
		昆虫分子生物学特論	1	
		先端昆虫分子生物学特論	1	
		システム生態学特論	1	
		進化生態学特論	1	
		動物資源開発学特論	1	
		農業気象学特論	1	
		★食資源環境科学特別演習Ⅰ	1	
		★食資源環境科学特別演習Ⅱ	1	
		★食資源環境科学特別演習Ⅲ	1	
		★食資源環境科学特別演習Ⅳ	1	
		★特別研究Ⅰ	8	
		★特別研究Ⅱ	8	
		★特別研究Ⅲ	10	
		★特別研究Ⅳ	10	
専 門 科 目	生命機能科学	生化学特論	1	★を付した授業科目を含め48単位以上選択必修
		タンパク質科学特論	1	
		微生物遺伝学特論	1	
		真核微生物学特論	1	
		応用微生物学特論	1	

専 門 科 目		微生物学特論	1	
		生物有機化学特論	1	
		分子生物学特論	1	
		バイオセンシング特論	1	
		バイオ材料特論	1	
		分子細胞生物学特論	1	
		細胞情報学特論	1	
		食品生化学特論	1	
		食糧流通貯蔵学特論	1	
		食品科学工学特論	1	
		バイオマス利用特論	1	
		海洋資源化学特論	1	
		グリコバイオロジー特論	1	
		バイオメンブレン機能特論	1	
		食糧安全学特論	1	
		分子栄養学特論	1	
		脂質生化学特論	1	
		★生命機能科学特別演習Ⅰ	2	
		★生命機能科学特別演習Ⅱ	2	
		★特別研究Ⅰ	8	
		★特別研究Ⅱ	8	
		★特別研究Ⅲ	10	
		★特別研究Ⅳ	10	
専 門 科 目	国際・地域マネジメント	農業経済学特論	1	★を付した授業科目を含め48単位以上選択必修
		農業ビジネスマネジメント特論	1	
		アジア比較農業特論	1	
		食料市場流通特論	1	
		国際・地域協同組合特論	1	
		地域農業オーガニゼーション特論	1	
		比較農政学特論	1	
		農村社会学特論	1	
		ルーラル・デベロップメント特論	1	
		人間生態学特論	1	
		国際環境マネジメント特論	1	
		地域資源マネジメント特論	1	
		農村地理学特論	1	
		生態人類学特論	1	
		アジア地誌特論	1	
		★国際・地域マネジメント演習Ⅰ	1	
		★国際・地域マネジメント演習Ⅱ	1	
		★国際・地域マネジメント演習Ⅲ	1	
		★国際・地域マネジメント演習Ⅳ	1	
		★特別研究Ⅰ	8	
		★特別研究Ⅱ	8	
		★特別研究Ⅲ	10	
		★特別研究Ⅳ	10	

別表Ⅱ（第2条関係）

国際人材育成科目

科目区分	コース名	授 業 科 目	単位数	備 考
基礎必修科目		Freshman Seminar (フレッシュマンセミナー)	1	4科目6単位必修
		Survival Japanese・English (サバイバル日本語・英語)	1	
		Field Study (フィールドスタディ)	2	
		Summer Seminar (サマーセミナー)	2	
専門選択必修科目	生物科学	Advanced Crop Husbandry (作物栽培学特論)	1	4コースの各コースから1科目1単位以上、合計12単位を修得
		Advanced Plant Physiology (植物生理学特論)	1	
		Advanced Technology for Sustainable Agriculture (持続農業技術特論)	1	
		Advanced Plant Molecular Biology (植物分子生物学特論)	1	
		Advanced Plant Metabolism (植物代謝学特論)	1	
		Advanced Vegetable Horticulture (野菜園芸特論)	1	
		Advanced Floriculture (花卉園芸学特論)	1	
		Advanced Horticultural Physiology (園芸生理学特論)	1	
		Advanced Tropical Plant Resources (熱帯植物資源学特論)	1	
		Advanced Tropical Plant Improvement (熱帯植物改良学特論)	1	
		Advanced Animal Genomics (動物ゲノム学特論)	1	
		Advanced Reproductive Engineering (生殖工学特論)	1	
		Advanced Mycology (菌学特論)	1	
		Advanced in Plant Virus Evolution (植物ウイルス進化学特論)	1	
		Advanced Nematode Science (線虫科学特論)	1	
		Advanced Insect Molecular Biology (昆虫分子生物学特論)	1	
		Advanced Community Ecology (群集生態学特論)	1	
		Advanced Plant Molecular Breeding (植物分子育種学特論)	1	
		Advanced Fruit Tree Molecular Breeding (果樹分子育種学特論)	1	
	食資源環境科学	Advanced Environmental Soil Analysis (環境土壌解析学特論)	1	
		Advanced Shallow Sea Environment (浅海環境学特論)	1	
		Advanced Rural and Environmental Engineering (農村環境工学特論)	1	

科目区分	コース名	授 業 科 目	単位数	備 考
専門選択必修科目	食資源環境科学	Advanced Geoenvironmental Engineering (地盤環境工学特論)	1	
		Advanced Environmental Soil Physics (環境土壌物理学特論)	1	
		Advanced Environmental Chemistry (環境化学特論)	1	
		Advanced Irrigation Engineering (灌漑工学特論)	1	
		Advanced Hydraulic Engineering (水理水文工学特論)	1	
		Advanced Equipments for Agricultural Production (施設農業生産学特論)	1	
		Advanced Agricultural Machinery and System (農業機械およびシステム工学特論)	1	
	生命機能科学	Advanced Applied Biochemistry (応用生物化学特論)	1	
		Advanced Peptide Chemistry (ペプチド化学特論)	1	
		Advanced Applied Chemistry (応用化学特論)	1	
		Advanced Microbial Technology (微生物工学特論)	1	
		Advanced Oleo Science (オレオサイエンス特論)	1	
		Advanced Bioresource Chemistry (生物資源化学特論)	1	
		Advanced Membrane Biology (膜生物学特論)	1	
		Advanced Functional Food Engineering (機能性食品工学特論)	1	
		Advanced Practical Genomics (実践ゲノム科学特論)	1	
		Advanced Food Preservation Science (食品保蔵科学特論)	1	
		Advanced Molecular Biology for Environmental Response (環境応答分子生物学特論)	1	
		Advanced Eukaryotic Microbiology (真核微生物学特論)	1	
	国際・地域マネジメント	Advanced Agri-Food Marketing Studies (農産物マーケティング特論)	1	
		Advanced Rural Tourism (農村観光特論)	1	
		Advanced Human Ecology (人類生態学特論)	1	
		Advanced Rural Sociology (農村社会学特論)	1	
		Advanced Insular Socio-Economics (島嶼社会経済学特論)	1	
		Advanced Ecological Anthropology (生態人類学特論)	1	
		Advanced Farming Systems Research (ファームシステム研究特論)	1	

Special Seminar 特別演習	4	必修
-------------------------	---	----

別表Ⅲ（第2条関係）

外国人留学生特別科目

授 業 科 目	単位数	備 考
アグロサイエンス特論	1	
アグロサイエンス特別演習	2	

別表Ⅳ（第2条関係）

生物資源科学専攻（副コース：農業技術経営管理学コース）

科目区分	コース名	授業科目	単位数	備考
専門科目	経営管理	農業経済学特論*	1	4単位 選択必修
		食料市場流通特論*	1	
		比較農政学特論*	1	
		農業ビジネスマネジメント特論*	1	
		地域農業オーガニゼーション特論*	1	
		農村地理学特論*	1	
		生態人類学特論*	1	
		農村社会学特論*	1	
		アジア比較農業特論*	1	
		国際環境マネジメント特論*	1	
	技術管理	熱帯農業資源学特論*	1	4単位 選択必修
		熱帯作物改良学特論*	1	
		動物繁殖生理学特論*	1	
		植物分子遺伝学特論*	1	
		植物ゲノム工学特論*	1	
		蔬菜花卉園芸学特論*	1	
		花卉園芸学特論*	1	
		植物感染病学特論*	1	
		植物ウイルス病学特論*	1	
		線虫学特論*	1	
		システム生態学特論*	1	
		昆虫分子生物学特論*	1	
		動物遺伝育種学特論*	2	
		環境情報工学特論*	1	
		応用水利学特論*	1	
		利水解析学特論*	1	
		農地環境工学特論*	1	
		土壌物理学特論*	1	
		浅海環境工学特論*	1	
		生産地盤工学特論*	1	
		環境分析化学特論*	1	
		果樹生産学特論*	1	
		施設農業生産学特論*	1	
		応用植物生理学特論*	1	
		家畜管理学特論*	1	
		作物生産学特論*	1	
		農用先端機械学特論*	1	
		生産生態学特論*	1	
		微生物学特論*	1	
		微生物遺伝学特論*	1	
		生物有機化学特論*	1	
		海洋資源化学特論*	1	
		バイオセンシング特論*	1	
		食糧流通貯蔵学特論*	1	
		食品科学工学特論*	1	
		脂質生化学特論*	1	
		農業技術経営管理学概論	1	7単位必修
		農業技術経営管理学演習	3	
		修了研究	3	

*別表Ⅰの科目と同一

VII 佐賀大学大学院農学研究科における 修士論文等の提出に関する要領

平成16年4月1日
農学研究科委員会

(修士論文の提出)

第1 佐賀大学学位規則（平成16年4月1日制定。以下「学位規則」という。）第5条に規定する修士の学位の授与を受けようとする者は、修士論文を次に掲げるとおり作成し、所定の期日までに提出すること。

- 1 修士論文の概要（A4判，1頁，日本語又は英語で記載）は，1部を別紙の様式で作成し，農学部教務担当者に提出すること。提出期限は次のとおりとするが，同日が土曜日又は日曜日に当たるときは，その直前の金曜日とする。

9月修了予定者の提出期限 7月25日

3月修了予定者の提出期限 1月末日

- 2 学位申請書は1部を別紙の様式で作成し，農学部教務担当者に提出すること。また，修士論文3部を作成し，指導教員に提出すること。提出期限は次のとおりとするが，同日が土曜日又は日曜日に当たるときは，その直前の金曜日とする。

9月修了予定者の提出期限 7月末日

3月修了予定者の提出期限 2月5日

附 則

この要領は，平成16年4月1日から施行する。

附 則（平成22年3月22日改正）

- 1 この要領は，平成22年4月1日から実施する。
- 2 平成22年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については，なお従前の例による。

附 則（平成27年1月21日改正）

- 1 この要領は，平成27年1月21日から実施する。

(A4判)	修士論文概要記載要領		1.5cm アケル
	題 目 (中央に書く)		
生物資源科学専攻〇〇〇コース〇〇〇分野 学籍番号 氏 名			
1 字アケル			
2 cm アケル	本 文		1cm アケル
(注 意 事 項) この概要は、印刷配布されるものであり、統一のとれた読みやすいものにするため記載に当たっては以下のことに注意してください。 1 用紙のサイズ及び形体は、A4判とし、ワードプロセッサ等を使用してください。 2 本文・題目等は、線で囲む必要はありません。 3 図表は適宜挿入しても構いません。 4 印刷されるので、概要を提出する前に指導教員に目を通してもらい、誤字・脱字等の誤りがないように注意してください。			
1.5cm アケル			

別紙第1号様式（第7条第1項関係）

修士の学位申請書の様式

学 位 申 請 書

年 月 日

佐賀大学大学院農学研究科長

○ ○ ○ ○ 殿

佐賀大学大学院農学研究科生物資源科学専攻

学籍番号

氏 名 印

佐賀大学学位規則第7条第1項の規定により、修士論文を提出しますので、御審査願います。

指導教員

氏 名 印

VIII 教育職員免許状(専修)の取得について

教育職員免許状（以下、「免許状」という。）には、一種免許状と専修免許状の2種類がある。一種免許状は、免許状取得に必要な所定の単位を取得して学部を卒業した者に与えられる。専修免許状は、一種免許状を既に取得している者が取得できる免許状で、専修免許科目として認定されている専門科目の所定単位を取得して大学院修士課程を修了した者に与えられる。専修免許状の取得に必要な授業科目と単位数は、別表のとおりである。

本学部及び大学院修士課程で取得できる免許状の種類は、下記のとおりである。

一種免許状（学部卒業）	専修免許状（大学院修了）
中学校教諭一種免許状（理科）	中学校教諭専修免許状（理科）
高等学校教諭一種免許状（理科）	高等学校教諭専修免許状（理科）
高等学校教諭一種免許状（農業）	高等学校教諭専修免許状（農業）

「理科」(生物資源科学専攻)
専修免許状 中専免・高専免

授 業 科 目	単位数
生物科学特論	1
食資源環境科学特論	1
生命機能科学特論	1
環境地盤学特論	1
環境分析化学特論	1
先端環境分析化学特論	1
分光統計解析学特論	1
土壌物理学特論	1
先端地水学特論	1
水環境工学特論	1
利水解析学特論	1
生産地盤工学特論	1
土質工学特論	1
浅海環境工学特論	1
干潟生態環境学特論	1
応用水利学特論	1
植物環境応答学特論	1
応用植物生理学特論	1
植物系統分類学特論	1
植物病原学特論	1
植物感染病学特論	1
昆虫分子生物学特論	1
先端昆虫分子生物学特論	1
システム生態学特論	1
進化生態学特論	1
動物資源開発学特論	1
生化学特論	1
タンパク質科学特論	1
生物有機化学特論	1
分子生物学特論	1
分子細胞生物学特論	1
細胞情報学特論	1
分子栄養学特論	1
脂質生化学特論	1
人間生態学特論	1
国際環境マネジメント特論	1
生態人類学特論	1
計	24単位

「農業」(生物資源科学専攻)
専修免許状 高専免

授 業 科 目	単位数
熱帯農業資源学特論	1
熱帯資源植物利用学特論	1
熱帯作物改良学特論	1
熱帯作物生理学特論	1
動物遺伝育種学特論	2
動物発生学特論	1
動物繁殖生理学特論	1
蔬菜花卉園芸学特論	1
園芸植物資源開発学特論	1
花卉園芸学特論	1
植物ウイルス病学特論	1
植物ウイルス学特論	1
線虫学特論	1
先端線虫科学特論	1
家畜行動学特論	1
家畜管理学特論	1
作物生産学特論	1
作物生態学特論	1
生産生態学特論	1
循環型農業生産学特論	1
果樹園芸学特論	1
果樹生産学特論	1
施設農業生産学特論	1
農地環境工学特論	1
農地農水計画学特論	1
農用先端機械学特論	1
微生物遺伝学特論	1
真核微生物学特論	1
応用微生物学特論	1
微生物学特論	1
バイオセンシング特論	1
バイオ材料特論	1
食品生化学特論	1
食糧流通貯蔵学特論	1
食品科学工学特論	1
バイオマス利用特論	1
グリコバイオロジー特論	1
食糧安全学特論	1
農業経済学特論	1
農業ビジネスマネジメント特論	1
アジア比較農業特論	1
ルール・デベロップメント特論	1
地域資源マネジメント特論	1
計	24単位

IX 鹿児島大学大学院連合農学研究科 (博士課程) について

本修士課程修了者は鹿児島大学大学院連合農学研究科博士課程に進学できます。

鹿児島大学大学院連合農学研究科は、佐賀大学農学研究科、琉球大学農学研究科、鹿児島大学農学研究科及び鹿児島大学水産学研究科の3大学4研究科から編成され、これらの研究科の緊密な連携のもとに運営されている新しいスタイルの博士課程（修業年限3年）です。各構成大学の教員組織や研究設備を連合して、博士課程の教育研究体制が確立されています。

受験資格は修士課程修了者（修了見込みの者を含む）及びこれと同等の学力を有すると認められる者です。受験者は、構成大学の教員の中から主指導教員についての希望を申し出ることができ、入学すると主指導教員が所属する大学で研究します。学生1人に主指導教員1人及び副指導教員2人がついて研究指導が行われます。

鹿児島大学大学院連合農学研究科に在籍（平成30年10月1日）している学生は129名で、そのうち21名（日本人学生11名及び外国人留学生10名）が佐賀大学の主指導教員のもとで研究指導を受けています。

鹿児島大学大学院連合農学研究科の専攻及び連合講座

専攻	連合講座
生物生産科学	熱帯資源・植物生産科学 動物資源生産科学 地域・国際資源経済学
応用生命科学	生物機能化学 食品機能科学 先端対応生命科学
農水圏資源環境科学	生物環境保全科学 地域資源環境工学 水産資源環境科学

X 科目等履修生について

大学院の学生が学部 of 授業科目を履修しようとする場合は、科目等履修生として受講することになる。希望する学生は、科目等履修生入学願書等を前学期（春学期）については2月末日まで、後学期（秋学期）については8月20日までに学生センター（農学研究科教務担当）に提出すること（「佐賀大学科目等履修生規程」参照（学生便覧掲載））。

なお佐賀大学科目等履修生規程の別表1（第11条第3項関係）に掲げる授業科目を履修し、単位の認定を受ける場合は、検定料、入学料及び授業料は必要ない。

○佐賀大学科目等履修生規程別表1（第11条第3項関係）について

佐賀大学科目等履修生規程別表1

学 部 等	授 業 科 目
全学部	教員の免許状取得に必要な授業科目 研究科が指定する学部の授業科目
全学教育機構	日本国憲法

佐賀大学科目等履修生規程別表1（第11条第3項関係）で、農学研究科が指定する学部の授業科目は次のとおり。

資 格 名	科 目 名
家畜人工授精師 （応用生物科学科及び生物環境科学科資源循環生産学コースの卒業生のみ）	動物資源開発学，フィールド科学基礎実習Ⅰ，動物繁殖生理学，フィールド科学基礎実習Ⅱ，動物遺伝育種学，動物生体生理学，動物生産管理学，動物資源開発学実験Ⅰ，飼料資源学，動物資源開発学実験Ⅱ
測量士補及び測量士 （生物環境科学科生物環境保全学コースの卒業生のみ）	測地学Ⅰ，測地学演習Ⅰ，測地学Ⅱ，測地学演習Ⅱ
食品衛生管理者 食品衛生監視員	土壌学，植物栄養学，生物化学，応用微生物学，栄養化学，食品化学，生物有機化学，農薬化学

